

平成 28 年度 文部科学省 委託事業

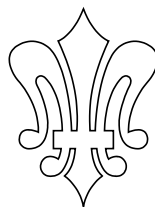
「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」

研究成果報告書

通信制の支援体制構築とアセスメント方法の開発

～外部機関と連携した支援体制を設計し、

それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～



学校法人 白百合学園

仙台白百合学園高等学校 通信制課程〔エンカレッジコース〕

《巻頭言》

通信制課程、開設4年目に寄せて

仙台白百合学園中学・高等学校 校長 青木タマキ

仙台白百合学園高等学校 通信制課程〔エンカレッジコース〕は、平成29年度で開設4年目を迎えました。全日制課程という教育制度に適応できない生徒が増加する中で、そのような生徒たちも「通信制」という柔軟な教育システムを用いて高校生活と高校卒業を支援することは、カトリック学校にとって建学の精神の具現化であり、社会からの期待に応えることにもなります。こうした理由から、平成26年、全日制に加えて女子のみを対象とした通信制課程を開設し、皆様から多くの支援を受けながら今日まで歩んでまいりました。少しずつ地域社会からの評価も高まり、3年目には在籍数が83人になり、過去2年間に卒業した生徒数を合わせると100余名の女子生徒が在籍したことになります。

この歩みの中で、平成27年に、文部科学省の「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の研究指定校に応募、認可され、調査研究を委託されました。28年度の研究テーマは、「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発」です。社会の変化とともに多様化する生徒たちを支援するためには、学校が社会の力も借り、「チーム学校」として教育力を高めることが急務であると認識し、この研究を通して外部機関との連携を密にしながら、生徒の人間力や社会性を育てていくという目標を持った次第です。

このたび、お陰様で、この研究テーマに沿った教育活動の展開と成果を紹介する最初の報告書ができあがりました。教職員一同まだ微力ではありますが、生徒達の成長している姿を研究努力の成果としてご理解いただきたく、是非ご覧くださいませ。

本校の教育は、貧しく教育を受けることが困難な人々へ奉仕することから始まったシャルトル聖パウロ修道女会の精神が原点になっています。これからも、一人ひとりに寄り添い社会の多方面の方々のお力も借りながら、生徒が神様から授かったタレントを大事に育てるお手伝いに邁進していく所存でございます。今後とも皆様方の温かいご支援とご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

《目 次》

《巻頭言》

I 本校の概要

- 1 仙台白百合学園について
- 2 通信制課程の開設と、その目的
- 3 通信制課程〔エンカレッジコース〕の概要と特色

II 調査研究の概要

- 1 調査研究課題名
- 2 調査研究のねらい
- 3 社会の現状と調査研究の社会的ニーズ
- 4 調査研究の概要

III 調査研究の実施計画と検討会議

- 1 調査研究の実施計画
- 2 調査研究の検討会議構成メンバー

IV 調査研究の実施状況

- 1 前年度のアセスメント結果の確認
- 2 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と学習プログラムの設計
 - (1) 外部機関と連携した運営組織の設計
 - (2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況
 - (3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための会議や研修会の設定
- 3 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施
 - (1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発
 - (2) アセスメントの結果と分析
 - (3) アセスメント検討会議Ⅱの内容
- 4 総括と改善案策定
 - (1) 今年度の取り組みについての総括
 - (2) 次年度に向けての改善案策定

I 本校の概要

1 仙台白百合学園について

学校法人「白百合学園」は、現在、函館、盛岡、仙台、東京、藤沢、強羅、八代に広がり、幼稚園から大学院までを運営しながらカトリックの教えに基づく全人教育を行っている。仙台白百合学園は、1893年に創立され、その後、中学・高等学校に幼稚園や小学校、大学(仙台白百合女子大学)が加わり、2018年には創立125年を迎える。

白百合学園の教育の原点は、その設立母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の精神にさかのぼる。この修道女会は、17世紀末のフランス、ルイ王朝の華やかな文化の陰で、貧困に苦しみ、教育の機会に恵まれない人々へ奉仕することを目的に設立された。その後、「社会から顧みられず、忘れられがちな人々への奉仕を優先する生き方」をモットーとして、現在、世界37か国で、教育・福祉・医療の仕事に従事している。「愛の心を持って人類社会に奉仕できる女性を育てる」という本校の建学の精神は、この修道女会の精神から発している。

2 通信制課程の開設と、その目的

この仙台白百合学園の高等学校に、平成26年(2014年)、「通信制課程〔エンカレッジコース〕」が誕生し、3年が経過した。全日制課程という教育制度に適應できない生徒が増加する中で、そのような生徒たちこそ迎え入れ支援することが、カトリック学校の本来の姿だと考えている。

全日制課程に通信制課程を加えることで、様々な層の生徒を受け入れ、一人一人の「学びたいという意欲」に応じて白百合学園の教育の可能性を一層広げていきたいと考えている。

3 通信制課程〔エンカレッジコース〕の概要と特色

◆広域通信制課程

入学対象者 ; 宮城県、北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に在住する女子

◆ミッションスクールとしての通信制課程

今、様々な事情で全日制の教育システムに適應できない生徒たちが増えている。そうした生徒たちをも迎え入れ支援することがカトリック学校の本来の姿だと考えている。必修科目として「宗教」を学ぶほかにも、クリスマス会、修養会などの行事や、教会が主催するボランティアなど、ミッションスクールならではの体験ができる。

◆女子だけの落ち着いた教育環境

本校通信制課程は、全国でも数少ない女子だけの通信制である。そこには女子だけで学ぶ“安心感”があり、女子が持っている特性が豊かに育つ環境がある。

◆豊富な社会体験

本校では、水曜日と土曜日にスクーリングが設定されているが、それ以外の曜日を利用して、外部機関と連携した様々な社会体験の機会を設けている。NPOと共に被災地を訪れ現地の方々と交流するワークショップや、施設訪問、路上生活者のための炊き出しなどのボランティア活動も行われ、生徒の社会性を育てている。

◆様々な校内体験講座

スクーリング以外にも、資格取得講座、学習サポート講座、興味を広げる参加型講座などを設定し、生徒の興味関心を広げている。今年度は、英語検定講座、パソコン検定講座、英会話講座、英語力アップ講座(基礎編・応用編)、基礎数学講座、時事問題講座、パッチワーク講座、アロマでリラックス講座、パイプオルガン講座などが開講されている。

II 調査研究の概要

1 調査研究課題名

外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発
～外部機関と連携した支援体制を設計し、
それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～

2 調査研究のねらい

- 1 通信制に学ぶ生徒の社会性を向上させるために有効な支援システムを、外部機関との連携と協働によって設計する。
- 2 その効果を検証するためのアセスメント方法を開発する。
- 3 アセスメントによって、より有効性のある通信制高校の支援システムを構築する。

3 社会における現状、調査研究の社会的ニーズ

宮城県ではここ数年、中学生の不登校率ワースト1に近い状態が続いている。東日本大震災によって居住地の変更を強いられ、新たな環境に適応できない子供達が増えたことも不登校児童生徒の増加と関係があると思われる。

本校にも、大震災が関係すると思われる生徒を含め、中学高校各学年に若干名の不登校生徒がいる。こうした生徒達を、「通信制」という柔軟な教育システムを用いて支援するために、平成26年、全日制に加えて通信制課程を開設した。既に20人の生徒を卒業させ、現在(H29.2月現在)83人の女子生徒が在籍している。

この生徒たちに共通しているのは、中学校や全日制高校に適応できなかった自分を否定的にしか捉えられず、自信を無くし将来への展望を見いだせないでいる姿である。この生徒達に自己有用感を持たせ、生きる意味を見つけることを支援するために、通信制だからこその支援体制が必要とされている。

しかし、生徒の不登校の背景や原因は様々であり、学校だけの取り組みには限界がある。また生徒の不安感の背景には、子どもにどのように対応したらよいか迷っている親の姿がある。こうした現状下、外部機関の力も借りて学校や保護者の教育力を高めることが今、求められている。

4 調査研究の概要

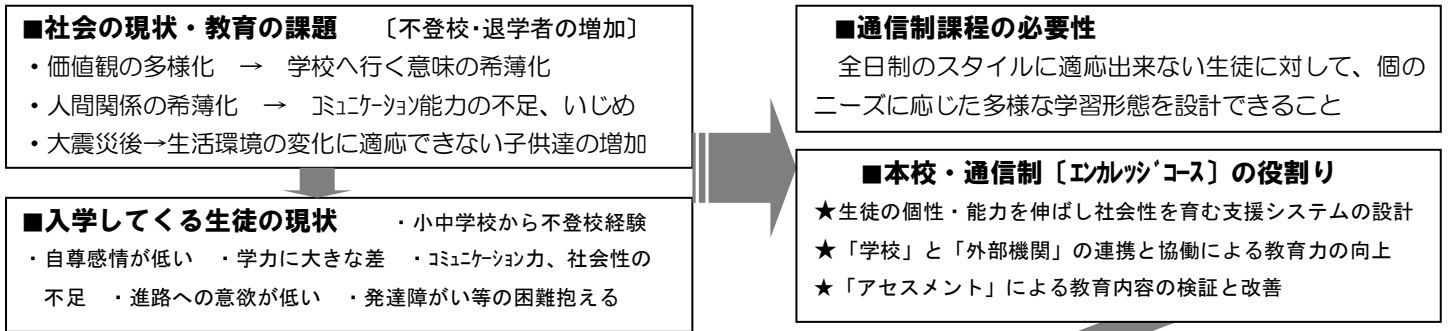
不登校状態にある生徒に自己有用感を育み将来への展望を持たせるためには、通信制における効果的な支援体制の設計が急がれる。この調査研究では、まず生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばし、自分を社会に役立てようとする志を育てるための学習プログラムや生徒を支援する運営組織を設計する。その際、留意するのが、外部機関や外部人材と連携し学校の教育力を高めることである。次に、その実践を、独自に開発したアセスメント方法によって検証し、学習プログラムの内容や運営組織の改善を試みる。その過程を通して、どのような外部機関との連携の仕方が教育効果を上げることが出来るかを探究し、「運営組織」や「学習プログラム」などの総体的支援体制を構築していきたい。

(調査研究の概要図は次項のとおり)

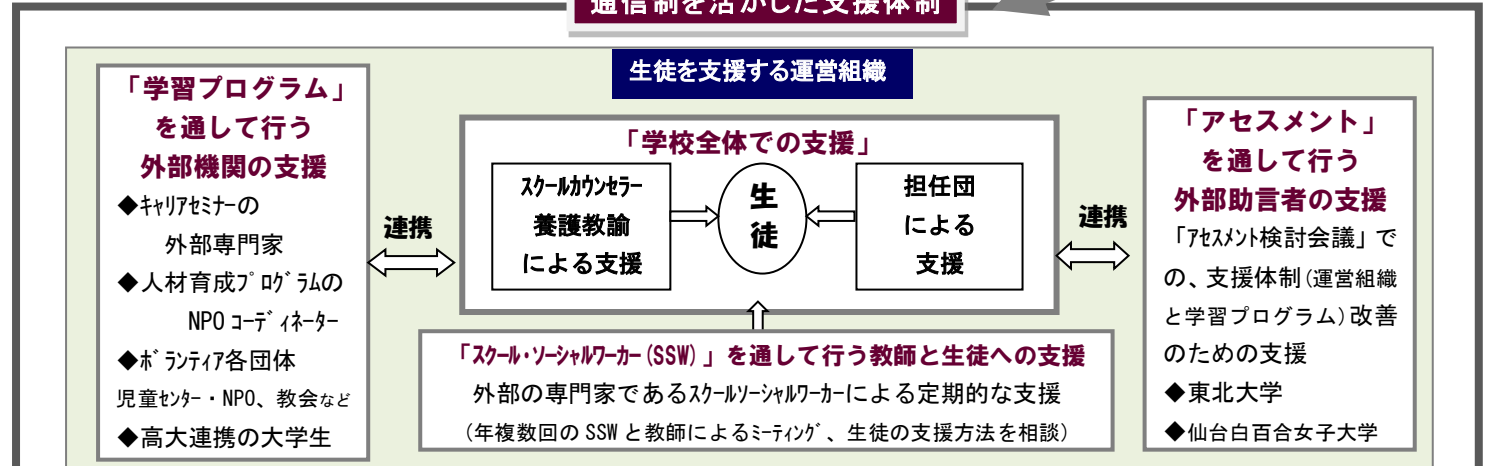
【調査研究 概要図】

研究テーマ 「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発」

～外部機関と連携した支援体制を設計し、それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試み～



通信制を活かした支援体制



一人ひとりの個性・能力を活かし、社会性を育む学習プログラム

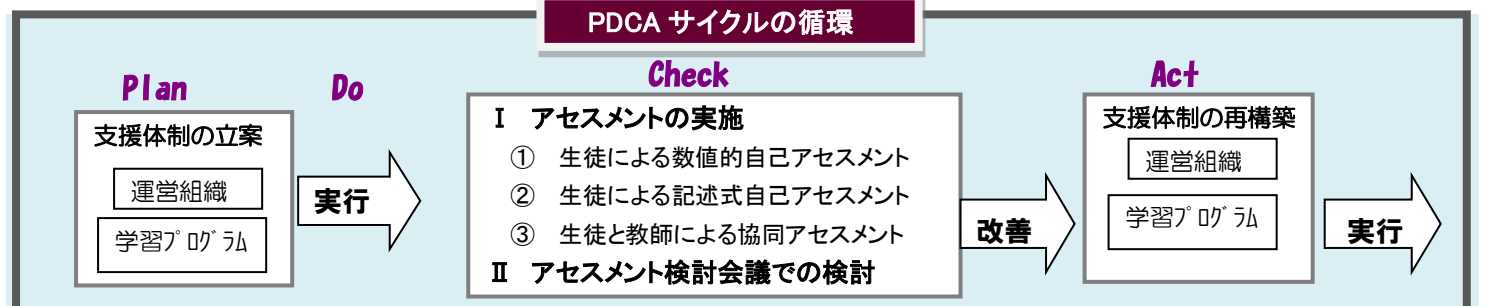
外部機関との連携と協働

カテゴリー	プログラム名	活動内容
専門家によるワークショップ型	キャリアプランニング・セミナー	心理カウンセラー、キャリアカウンセラーなどの専門家を学校に招いてのワークショップ
交流体験・自然体験型	野外環境コミュニティー体験講座	外部コーディネーターと被災地・石巻を訪れ、交流や自然体験を行う
ボランティア活動型	炊き出しボランティア	NPO・教会と連携した路上生活者のための炊き出し
	施設訪問	特別養護老人ホームの入居者との交流
	With kids ボランティア	児童センターや小学校での子供たちと交流
大学生との座談会型	高大連携「学び直し」	年齢の近い大学生とリラックスした空間で行う情報交換会や勉強会
座学的体験講座型	EOP 体験講座、修養会等の行事	外部講師によるワークショップ・英会話の体験講座や修養会、クリスマス会
保護者対象コーチング型	教育コーチング・セミナー	外部認定教育コーチによる「親力向上」セミナー

視野を広げ、能動的な学習姿勢を育む探究活動

<p>「自己理解力、コミュニケーション力、探究心」を育成する「総合的な学習の時間」の展開</p> <p>総合 A-1 “自己理解シート”の活用</p> <p>総合 A-2 隣人につながるためのワークショップ</p> <p>総合 BC 社会につながるためのワークショップ</p> <p>総合 DE 私の生き方、私の未来</p>	<p>学校設定科目「グローバル・スタディーズ」の開発</p> <p>～地球規模の諸課題の問題解決を考える探究活動～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 “身近なもの” から世界を考える ① (ケイタイ) 2 “身近なもの” から世界を考える ② (バナナ) 3 探究活動 “私”の一步が社会を変える!? 4 探究活動発表会
---	--

PDCA サイクルの循環



Ⅲ 調査研究の実施計画と検討会議

1 調査研究の実施計画

28年度	実施計画					
	キャリア・セミナー	野外環境	ボランティア	他の諸事業	研修会参加	アセスメント
4月		説明会				
5月	セミナー①	被災地訪問 ①		高大連携 EOP		数値的自己評価
6月	セミナー②	被災地訪問 ②	施設訪問① 炊き出し	高大連携 EOP	全通研研究協議会 (和歌山)	
7月	セミナー③	被災地訪問 ③	施設訪問② With Kids 児童館	保護者セミナー 高大連携 EOP		
8月		宿泊研修 被災地訪問 ④	With Kids 小学校			
9月	セミナー④		施設訪問③	EOP		
10月	セミナー⑤	被災地訪問 ⑤	炊き出し	高大連携 EOP	地区通研 生徒生活体験発表会 (青森)	中間アセスメント
11月		被災地訪問 ⑥	施設訪問④ 炊き出し	修養会 EOP		数値的自己評価 記述式自己評価
12月		被災地訪問 ⑥	炊き出し	クリスマス会 高大連携 EOP		生徒と教師による 協同アセスメント
1月	セミナー⑥	被災地訪問 ⑦	炊き出し	高大連携 EOP	全通研・研修会 (東京)	アセスメント 検討会議Ⅰ
2月						アセスメント 検討会議Ⅱ
3月						

2 調査研究の検討会議メンバー

氏名	勤務先・職名等
青木タマキ	仙台白百合学園中学・高等学校 校長
阿部和彦	同上 高等学校 通信制課程 教頭
宮崎 哲	同上 主任 (英語科)
清田拓郎	同上 教務担当(数学科・情報科)
鈴木有子	同上 特別活動担当(英語科)
藤村友紀	同上 庶務担当
氏家忠俊	仙台白百合学園中学・高等学校 事務長
戸村たつひ	同上 養護教諭
平井美弥	同上 スクールカウンセラー(東北大学大学院教育学研究科所属)
高橋 満	東北大学大学院教育学研究科(学科長・教授)
牛渡 淳	仙台白百合女子大学(学長・人間学部教授)(中央教育審議会委員)

IV 調査研究の実施状況

《調査研究の方法》

1. 前年度のアセスメント結果の確認

2. 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と学習プログラムの設計

(1) 外部機関と連携した運営組織の設定

(2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況

① 生徒の資質を伸ばすための「指標」作り

② 「指標」に基づいた、外部機関と連携した学習プログラムの設計と実施状況

(1) キャリアプランニングセミナー

(2) 野外環境コミュニティー体験講座

(3) ボランティア体験活動

① 炊き出しボランティア

② 施設訪問

③ With Kids ボランティア

(4) 高大連携 座談会

(5) EOP 体験講座

(6) 修養会

(7) クリスマス会

(8) 保護者向けワークショップ

③ 「指標」に基づいた、探究活動の設計と実施状況

④ 学習プログラムや探究活動のために購入した「設備備品」の使用状況

(3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための会議や研修会の設定

① スクールソーシャルワーカーによる支援

② 研修会参加

3. 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施

(1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発

① アセスメントの手順

② アセスメントの方法

(2) アセスメントの結果と分析

① 5月、11月の数値的自己評価の変化

② 11月の記述式自己アセスメントの分析

③ 外部機関と連携した運営組織のアセスメント〔アセスメント検討会議Ⅰ〕より

④ 外部機関と連携した学習プログラムのアセスメント〔アセスメント検討会議Ⅰ〕より

⑤ アセスメントの結果を「個人」の生徒指導に活かす方法

(3) アセスメント検討会議Ⅱの内容

4. 総括と改善案策定

(1) 今年度の取り組みについての総括

(2) 次年度に向けての改善案策定

1. 前年度のアセスメント結果の確認

【生徒に対するアセスメントより】

- 1 生徒の社会性やコミュニケーション力の向上のために、「社会参加」や「自分の意見を述べる場」を学習活動に取り入れることの必要性を再確認できた。
- 2 体験的要素がある活動は、中学校時代、学校に十分通うことが出来なかった生徒にとって、人と人が繋がることで相互が高め合えることを知る貴重な体験になることが分かった。
- 3 特に本校の「建学の精神」に基づく宗教行事は生徒に新鮮な印象を与え、人間が生きていく上で大切な指針を与えられることを再確認できた。
- 4 自己を否定しがちだった不登校気味の生徒にとって、充実した学校生活を送ることは、「積極性」「意欲」「行動」「自信」につながり、それが学習への意欲、進路実現に向けての努力の必要性の自覚につながることを再認識できた。

【アセスメント検討会議より】

- 1 研究テーマの一つである「外部機関との連携の効果」を検証する際、外部機関との連携の仕方を構造化し、カテゴリーに分類することで、その効果をより明確に確認できることの示唆を受けた。
- 2 アセスメントの分析や結果表記に「レーダーチャート」を使用すると有効であることを知ることができた。
- 3 生徒を支援する運営組織の中に「スクールソーシャルワーカー(SSW)」を含めることの必要性を確認することができた。

【先進校視察より】

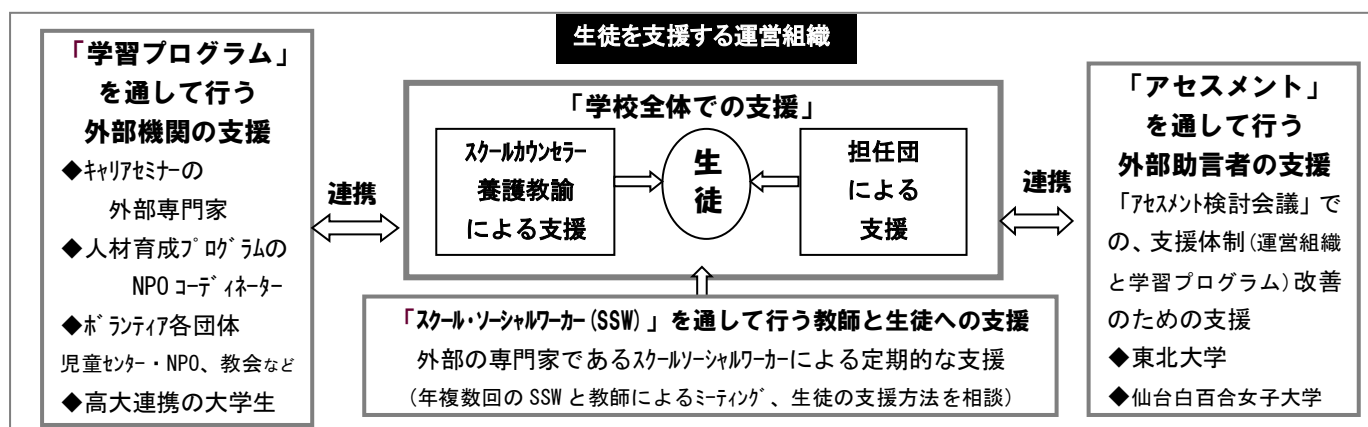
- 1 外部機関との連携の実践を紹介してもらうことで、学校内のスタッフだけの教育活動ではなく、外部機関とチームを組むことが大きな教育的効果を生み、生徒の成長を促すことを教えられた。
- 2 教員と外部人材の接触は、特別な支援を必要とする生徒との関わり方において、教員の資質の向上につながることを確認できた。
- 3 外部主導の活動だけでなく、生徒会活動、委員会活動という学校内の活動を盛んにし、地域との交流を進めることで地域連携を促進できることを学んだ。

【次年度の調査研究に取り入れる主な事項】

- 1 生徒の学習プログラムに、社会体験(ボランティア、地域の人々との交流、自然体験など)を多く取り入れる。
- 2 専門家、NPO、学生など、外部機関との連携を強める。
- 3 次年度の研究対象である「外部機関との連携の仕方」を分類し構造化することで、アセスメントの効果をより高める。
- 4 生徒を支援する運営組織の中に「スクールソーシャルワーカー(SSW)」を含める

2. 前年度のアセスメント結果に基づいた運営組織と 学習プログラムの設計

(1) 外部機関と連携した運営組織の設定



(2) 外部機関と連携した学習プログラムと探究活動の設計と実施状況

① 生徒の資質を伸ばすための「指標」作り

★生徒の資質の向上を判断するための基本的な指標は次の事項である。

- 1 自分の個性に気付き、自分の良さを受け入れることができる。 **【自己理解力】**
- 2 他者の意見を理解し、自分の考えを伝えるコミュニケーションをとることができる。 **【コミュニケーション力】**
- 3 社会の一員であることを意識し、自分を社会に活かそうとする志を持つことができる。 **【社会参画意識】**
- 4 弱い立場にある人々へ共感し、他者のために奉仕することができる。 **【弱者への視点と奉仕の精神】**
- 5 将来、自分を社会に活かすための確かな学力を身につけている。 **【確かな学力】**

※これら 5 つの指標を更に細分化した 22 の指標は、後述の〔資料〕「生徒による数値的自己アセスメント表」参照

② 「指標」に基づいた、外部機関と連携した学習プログラムの設計と実施状況

★「外部連携プログラム」を次の6つのカテゴリーに分け計画案を策定、どのような連携の仕方が教育効果を上げることができるかを検証する。

- ① 専門家によるワークショップ型
- ② 地域の人々との交流体験・自然体験型
- ③ ボランティア活動型
- ④ 大学生との座談会型
- ⑤ 外部講師による座学的体験講座型
- ⑥ 保護者対象コーチング型

外部機関と連携した主な学習プログラムと育成する資質

カテゴリー	プログラム名	外部機関との連携の形態	活動内容	向上を期待する資質
ワークショップ型 専門家による	キャリアプランニング セミナー	NPO「ハーベスト」の協力 による外部専門家派遣	心理カウンセラー、セラピスト、認定 コーチ、キャリアカウンセラーなどの専 門家を学校に招いてのワーク ショップ	・自己理解力・自己肯定感 ・コミュニケーション力 ・プレゼンテーション力 ・社会への興味・関心 ・進路への意欲
自然体験型 交流体験型	〔被災地復興支援〕 野外環境 コミュニティー 体験講座	NPO「スマイル・シー ド」理事長によるコーデ ィネット	NPOの外部人材のコーディネット により被災地・石巻や網地島を 訪れ、交流やキャンプ、自然体験 を行う	・地域・被災地への関心 ・自然環境への関心 ・課題解決のための行動力 ・自分の生き方の探究 ・社会参画意識
活動型 ボランティア	炊き出し ボランティア	NPO「萌友」と カトリック教会の協力	NPO・教会と連携した 路上生活者のための炊き出し	・弱い立場の人々への共感 ・社会への関心 ・奉仕の精神と実践 ・社会参画意識と行動力 ・コミュニケーション力
	施設訪問	特別養護老人ホーム 「暁星園」の協力	特別養護老人ホームの入居者 との交流	
	with kids ボランティア	「寺岡児童センター」 「併設小学校」の協力	児童センターや小学校での子 供たちと交流	
座談会型 大学生との	高大連携 「学び直しと 発展学習」	仙台白百合女子大との 連携	姉妹校の大学生が毎週、来 校、年齢の近い大学生とリラッ クスした空間で行う情報交換会 や勉強会	・コミュニケーション力 ・大学への興味関心 ・基礎学力の向上 ・学習する意欲 ・進路への関心
体験講座型 座学的	◆EOP (エンカレッジ・オリジナルプログラム) ・パッチワーク講座 ・英会話講座 ◆修養会 ◆クリスマス会	・パッチワーク教室 講師と、講英会話講 師の雇用 ・本修道女会からの講 師の派遣	・外部講師による、パッチワーク や英会話の体験講座 ・本修道女会からの講師派遣 による「自己を見つめ生き方 を考える」体験講座	・講座を通して得られたそれ ぞれのスキル ・グループ学習を通して培う 協力性 ・弱者への視点、奉仕の精 神
コーチング型 保護者対象	教育コーチング 「親力向上」セミナー	外部専門家(認定教育 コーチ)による保護者指導	子どもへの接し方についての、 親の勉強会	・親の安心感、自信の回復 ・親子関係の向上 ・子どもの自尊感情、向上心 の高まり

(1) キャリアプランニング・セミナー、実施状況 【★専門家によるワークショップ型】

〔概要とねらい〕

主に月1回程度、心理カウンセラー、セラピスト、認定コーチや様々な職業に従事している方を招いて、心の持ち方、コミュニケーションの取り方、社会との関わり方などについて学んだ。不登校経験者や自尊感情が低い生徒、学習や進路への意欲が低い生徒の自己肯定感を高め、進路への意識、社会参画意識を育てる試み。28年度の講師は次の7人を招聘した。

【連携した外部機関、外部人材】

《講師》

茅原田久仁子氏 株式会社ハッピーウーマン代表取締役／セラピスト

西城 あや氏 株式会社ドリームフィールド／認定コーチ

志伯 暁子氏 キャリアトーク代表／話し方コンサルタント

高木 亨氏 社会貢献型通所介護事務所「おぢゃっこ倶楽部」代表取締役／介護福祉士

吉田 由美氏 フランス食堂 Chez Harmonie オーナー／パティシエ

工藤 博氏 K design 代表

浦沢みよこ氏 株式会社インターサポート代表取締役／留学カウンセラー

【実施状況】

第1回 5/25（水）・全体説明会 ・講座：「“じぶん”を見つめる」 所要時間：2時間

講師 西城 あや氏 茅原田久仁子氏

第2回 6/8（水）講座：「心のヨガ」 所要時間：1時間

第3回 7/13（水）自己探求活動：「価値観を整理しよう」 所要時間：1時間

第4回 9/21（水）講座：「職業人の“あたまの中”と“こころの向き”」

講師：高木 亨氏 吉田 由美氏 工藤 博氏 浦沢みよこ氏

*1講座50分。4つの講座のうち2つを選んで受講。

第5回 10/12（水）ワークショップ：「コミュニケーション」 所要時間：2時間

講師：志伯 暁子氏

★上記の企画は、全員参加を原則として行った。

キャリアプランニングセミナー

《第1回 講座「“じぶん”を見つめる」 5/25(水) 》



《第2回 講座「心のヨガ」 6月8日(水) 》



《第3回 自己探求活動》
ランキング「価値観を整理しよう」 7/13(水) 》



《第4回 講座:「職業人の“あたまの中”と“こころの向き” 9/21(水)》



《第5回 ワークショップ「コミュニケーション」 10/12(水) 》



【生徒の感想より】

◆1ヶ月に1回、1～2時間のペースで色々な方のお話を伺うことは、一瞬、立ち止まり考え直すきっかけのひとつとなりました。また、お話を伺うことだけでなく、ヨガ等実際に体験してみることで、“かつてもっていたイメージ”が変わったり、その効果を学ぶことが出来ました。

これから先のことを考えるにあたって、自分の「在り方」を決めずに、どう在りたいかを考えることで、自分らしい月日を送ることが出来るのではないだろうか。過去は過去で大切にした上で、一番難しいであろう「普通」の人生が歩めたらそれは幸せなこと。色々な人生の歩み方を聞き、自分の個性を自分自身で受け入れ、自分らしく歩き続けることが将来の糧となるだろう。歳月人を待たず、どれだけ「自分らしい・これこそが自分である」と言える人生を送れるだろうか。 (H.K)

◆キャリアプランニング・セミナーで印象に残っていることは、自分が誰かと違うことは決して悪いことではないと知れたことです。中学の時から学校へ行けなくなり、自分は他の「普通」の人たちとは違うダメな人間なんだと思うようになりました。でも、キャリアプランニング・セミナーに参加して、話を聞いて、自分が誰かと違うことは当たり前だから、誰かと違うことは悪いことではない、誰かに自分を批判されても、自分で自分を批判したりはしないこと、など自分一人では思っていたけど肯定できなかったことが、それでもいいのだと認めることが出来ました。他人と違う自分に引け目を感じていましたが、自分は劣っているのではなく、これが自分のやり方で自分の道なのだと思うことが出来るようになりました。自身の持っている暗い考えを変えるきっかけを作ることが出来たので、キャリアプランニング・セミナーに参加することが出来て良かったと思います。 (M.S)

◆私は、キャリアプランニング・セミナーは視野を広げて、世界を知ることだけだと思っていました。しかし、実際にキャリアプランニング・セミナーに出席してみると、今までの考えや見方などが違う方向から見ることができ、自分でも驚きました。

今までのキャリアプランニング・セミナーに出席してみて、色々な大切なことに気づくことが出来たり、これから先、悩んだり迷ったりしたとき、どのようにしたら良いかなど、たくさんの意見やアドバイスが聞けて参考になりました。苦手なことは少しずつ。得意だったり好きなことは、今よりもっと幅広く増えるように、頑張っていきたいと思います。 (C.T)

(2) 野外環境コミュニティー体験講座、実施状況 【★交流体験型・自然体験型】

〔概要とねらい〕

東日本大震災から5年が経つが、震災への関心は風化しつつあり、被災地では行政支援の遅れ、人口の流出などが目立つ。そうした中で、震災直後の物質的支援とは異なった新たな支援が求められている。以下の活動では、被災地の人々と高校生が、交流や諸活動を通して、共に地域の諸課題について考える。特に宮城県は、震災の影響が背景にあるとみられる不登校生が多く、本校の生徒も例外ではない。そうした生徒達の地元でもある地域への関心、社会参画意識を育てるのがこの活動のねらいである。

講師を依頼する黄本富士子氏には、本校のオリジナルなプログラムの作成やコーディネートを委託した。

【連携した外部機関、外部人材】

・「NPO 法人スマイルシード」理事長 黄本富士子氏

※「NPO 法人スマイルシード」について

植林活動や子供支援ボランティアなど、宮城県の復興支援活動を行う。

特に力を入れているのが、県内外の若者層を対象にした人材育成事業。

地域の人との様々な野外体験学習を通してバリエーション豊かなワークショップを行い、

次世代を担う若者の社会貢献への意識向上を促す。

【実施状況】

5/11(水) 活動キックオフ全体ミーティング(校内)

5/23(月) 被災地石巻市内視察 (石巻大川小、女川町、石巻明神社など)

6/1(水) 活動のための事前ミーティング(校内)

6/13(月) 石巻渡波地区「美化・清掃」活動 (石巻明神社など)

7/6(水) 活動のための事前ミーティング(校内)

7/25(月) 仮設住宅支援 (石巻渡波地区)

8/3(水) 合宿のための事前ミーティング

8/8(月),9(火),10(水) 野外環境コミュニティー体験合宿(石巻 2泊3日)
(武蔵野大学と合同、清掃、花壇整備、ディスカッションなど)

8/13(土) 復興住宅(蛇田地区)夏祭り参加 (石巻・蛇田地区)

10/23(日) 網地島でサツマイモ堀り (石巻・網地島)

10/26(水) 夏合宿の振り返り (校内)

11/15(火) 網地島のサツマイモで、栗きんとん作り (校内)

11/20(日) 栗きんとんを持参し、石巻復興住宅で“お茶っ子” (石巻・蛇田地区)

11/30(水) 1年間の活動の振り返り (校内)

野外環境コミュニティー体験講座

《「被災地石巻市内視察」 5/23(月) 》



大川小学校跡で、献花を行う



石巻: 日和山公園で

石巻渡波地区「美化・清掃」活動
(石巻明神社など) 6/13(月)



野外環境コミュニティー体験合宿 in 石巻 8/8(月)~8/10(水)



網地島でサツマイモ掘り (石巻・網地島) 10/23 (日)



復興住宅(蛇田地区)夏祭り参加 8/13(土)



網地島で収穫したサツマイモで作った栗きんとんを持参し、
石巻復興住宅で“お茶っ子”



【生徒の感想より】

◆1 年間を通して、ひとつの活動に、ここまでしっかり関わることができたのは初めての経験でした。毎回どんな活動をするのか、緊張しながらも、とてもわくわくしながら参加することができました。

最初の一步目を踏み出すことは、失敗することを想像してしまって、つい怖くなってしまふけれど、黄本富士子さん（この企画を主催するNPOの理事長）が、いつも「失敗することは悪い事じゃない」と言って下さっていたため、失敗を怖がらずに前へ進むことができました。失敗を怖がって何も動けなくなるよりは、どんどんぶつかって少しでも何かを得ようと思えるなど、意識が変わってきたのは、自分の中で一番大きな変化だと思う。（H.N）

◆3 年生に進級してから目標が見つからず体調を崩すことが多くなり、自分に自信を持つことが出来ないうでした。そんな時、黄本さんの「今しか経験することは出来ない」という言葉に感銘を受け、“変わりたい”という思いで参加を決めました。

特に第4回目の渡波での合宿では、残念ながら体調不良で最後まで活動をやり通すことは出来ませんでした。自分のキャパシティというものを理解することが出来ました。一方で、カホン作りでは、1から物を作る難しさや、大学生の方々と交流の中で自分のアイデアが形になっていく楽しさは、参加しなければ決して得られることは出来なかった経験です。

第6回目の網地島でのサツマイモ掘りでは、日常の時間の流れが、いつもとまったく違うことに驚きました。悪戦苦闘しながらの芋掘りは、網地島の自然から何か、パワーをもらったような気がします。

体調が安定せず、参加できたのは3回まででしたが、ボランティア活動を通して、震災があったからこそできた人と人のつながりや絆を大切につなぎとめることが、ボランティアの本当の目的なのではないかと感じました。（M.Y）

◆最初は、どんなことをするのだろうかという興味で参加しました。明神社の宮司さんや石巻で甚大な被害を受けた現地の方々と活動を通して出会いました。そのような出会いと活動の中で、震災の被害を自分の目で感じ、復興という計画がどのように進み、現地の人々はどう感じているのかを、実際に肌で感じることができました。

私が参加した回数は飛び飛びで、すべてを見たわけではないのですが、人の心は案外強いのかもしいないと思えました。どんなに辛いことがあっても、周りの人と支え合うことができれば、辛い中でも何とか何とか1日を生きることができ、今は真っ暗でも何もできなくても、ちょっとした支えときっかけがあれば、きっと変わるのではないかと思います。

私達の活動が、どのくらい影響を与えることができたのかは分かりませんが、きっと誰かの心と笑顔を支えているのだと思います。（M.K）

(3) ボランティア体験活動、実施状況 【★ボランティア体験活動型】

①炊き出しボランティア

【概要とねらい】

仙台には、約 110 名ほどの路上生活者がいると推定されている。仙台の NPO とカトリック教会の組織は、毎月、第 2、第 3 土曜日に炊き出しと古着提供を行うことで路上生活者と触れ合い、社会復帰を促す支援を行ってきた。一昨年よりこの活動に本校通信制課程の生徒を参加させてきたが、自分の内側にのみこもりがちだった生徒の心を外へ向けさせ、社会に奉仕する意味を感じ取らせることができた。また、社会的弱者のために献身している大人や学生と接することは生徒の視野を広げ、社会に一步踏み出すきっかけをもたらしてくれるものと思われる。

生徒は、事前学習したあと、当日、おにぎり、豚汁作り、古着の仕分け、配膳などの手伝いをする。今年度は、10 名の生徒がこのボランティアに参加している。また、このボランティアはカリキュラムに設定されていて、単位制になっている。

【連携した外部機関、外部人材】

NPO 法人「萌友」、「日本カトリック正義と平和協議会」

【実施状況】

- 6/18(土) カトリック北仙台教会 (2 名参加)
- 10/15(土) カトリック北仙台教会 (1 名参加)
- 11/12(土) カトリック元寺小路教会～五橋公園 (2 名参加)
- 11/19(土) 福祉プラザ (3 名参加)
- 12/10(土) カトリック元寺小路教会～五橋公園 (3 名参加)
- 1/14(土) カトリック元寺小路教会～福祉プラザ (1 名参加)
- 1/21(土) カトリック北仙台教会 (2 名参加)

【炊き出しボランティア】 主な活動内容、時程の例

9:00	カトリック元寺小路教会集合、豚汁、おにぎり等の調理、古着の仕分け
11:00	五橋公園に移動、炊き出しの準備
12:00	炊き出し
13:00	片づけ、昼食
14:00	教会に戻り、片付け、振り返り
15:00	解散



カトリック元寺小路教会でおにぎり作り



仙台福祉プラザ



仙台五橋公園



仙台福祉プラザ 玄関広場

【生徒の感想より】

◆活動日になるまで、どんなことをするのか、一緒に活動する方々はどんな人たちなのか、色々考え出したら止まらなくなり、不安と緊張いっぱい活動場所に向かいました。ボランティアが始まると、野菜の切り方も分からない私に、一から丁寧に教えてくれました。そのうちにも不安も緊張も消えていました。

今まで衣食住に困らず生活してきたことが、どれだけ恵まれていたのか、気づくことができました。そして、生活に困らないように精一杯働いてくれている両親に感謝の気持ちを忘れないようにしようと思いました。(C.T)

◆今日は、始めて炊き出しのボランティアをしました。長テーブル 4 つに積み重なるぐらいの古着を仕分け、さらに 8 人以上でおにぎりを作ったり、車に荷物を運んだり、思ったより体を動かす仕事でした。それでも皆さんがテキパキと積極的に動いていたために、あっという間に仕事が終わりました。

そのような、1人ひとりの何か自分のできることをしようとする行動力が、この炊き出しというボランティアを支えているのだと感じました。炊き出しという貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(M.K)

◆初めてのボランティア活動ということもあり、あまりうまく動くことができませんでしたが、周りの方々が親切に教えて下さり、私のゆっくりとしたペースに合わせて、時々冗談を言って、和やかな雰囲気作業することができました。

活動を終えてあらためて学ぶことができたのは、思いやりとおもてなしの心です。例えばコーヒー一杯でも紙コップをただ渡すだけではなく、砂糖にミルク、それらを混ぜるスプーンが用意してあり、相手に気持ち良く渡すことが出来ました。当たり前のことですが、相手を思いやることで自然と体が動く、そんな心を持ちたいです。(M.Y)

◆自分がきちんとお手伝いできたかは疑問でしたが、ボランティアを終えてみると、疲れているはずなのに、なぜかすっきりとした気持ちになっていました。ホームレスの人のために行ったのですが、自分自身も幸せを感じました。“良いことをするという事は、偽善なのでは?” と思っていたこともありましたが、このボランティアでは、そんなことは全く感じませんでした。この学校を卒業しても、このボランティアは続けていこうと思いました。(M.T)

◆今回は、私も古着と石鹸を寄付しました。「ホームレスの方に使ってもらいたい」という父と母と私の思いからです。この古着は、亡き祖父が使っていたものです。人が亡くなるのは悲しいことですが、その人のこの世に残したものが、誰かが生きるために使われるということは、とても素晴らしいことだと思いました。命のつながりを感じました。

また今回は、こういうお話をボランティアの方から聞くことができました。「このボランティア団体の創設者が亡くなったことをホームレスの方に話したら、“私に何か出来ることはありませんか” と言われたので、“この活動が続くように見守っててください”と話しました」という話です。私はとても心に残りました。こんな世の中にも、こんなに純粋な話があるんだと思いました。卒業しても、このボランティアを続けていきたいです。この活動を紹介して下さいありがとうございました。(M.I)

②施設訪問

〔概要とねらい〕

学校・家庭以外の場所で他者と関わりを持つ機会を与え、社会の一員として生活していることに気付かせる。また、活動を通して奉仕する姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させる。自発的な行動がない場合でも「ここにいるだけでいい存在」と実感させ、その後入居者と関わっていく中で自らの役割を意識できるようにするのが目的。希望者を募集して実施する。

【連携した外部機関、外部人材】

社会福祉法人 カトリック児童福祉会 特別養護老人ホーム 暁星園

【実施状況】

- ・活動内容：ユニットに入り、2人1組で入居者の方と交流、傾聴を行った。
- ・その他、クリスマスに手作りのカードを送った。

*訪問先の施設の方がわかるように、活動中は揃いのエプロンを用意した。

・訪問日

- ・6/22（水） 5名参加
- ・7/6（水） 3名参加
- ・9/28（水） 5名参加
- ・11/16(水) 4名参加



【生徒の感想より】

◆いつも素晴らしいと思うのは、生きることに目標を持っているところです。私もお手本にして、目標を持って生活をしたいと思います。（M.K）

◆普段の生活の中でも、エンカレッジコースの中でも学べないことをこういう機会に学ぶことが出来て、とても光栄だなと思いました。また伺いたいと思います。（H.K）

◆常に時間を気にして話さなくてはならないのは、仕方がないとはいえ、少しさみしかった。それでも次の1ヶ月後を楽しみにしてくださっている方がいて嬉しかった。（N.H）

③With Kids ボランティア

〔概要とねらい〕

地域の児童館(寺岡児童センター)や、併設小の学童保育中の子供たちと触れ合うボランティア。希望者を募って行う。子供達のお世話をし、その純真な心に触れることによって、生徒の心を和ませ、心を外に向けさせるきっかけを作る。また年下の子供たちと接することは、生徒の精神的自立に向かわせる効果があると思われる。

内容としては、男女の別なく大人数で遊べる玩具である「KAPLA」(板状の積み木)を持参して児童たちと遊ぶ。なお、ボランティアに際し参加者には、“児童の面倒を見るために気を付けること”を、オリエンテーションを開催して確認。また、その際事前に KAPLA の使い方を学び、児童の遊びを導いてあげられるような準備を行う。

【連携した外部機関、外部人材】

- ・寺岡児童センター
- ・仙台白百合学園小学校 (時間外預かり SKIP)

【実施状況】

7/25(月) am	寺岡児童センター (2名参加)
7/26(火) am	寺岡児童センター (5名参加)
7/27(水) am	寺岡児童センター (3名参加)
7/28(木) am	寺岡児童センター (2名参加)
7/29(金) am	寺岡児童センター (2名参加)

8/1(月)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(6名参加)
8/2(火)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(1名参加)
8/3(水)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(2名参加)
8/4(木)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(2名参加)
8/5(金)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(2名参加)
8/16(火)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(3名参加)
8/18(木)	仙台白百合学園小学校(学童保育 SKIP)	(3名参加)



【生徒の感想より】

◆参加してみようと思ったきっかけは、中学校のころの職場体験で保育所に行ってみて、小さい子と関わることが自分は好きなんだと気がついたからだった。

今回の活動では短期間で2か所に行くことができたため、それぞれの場所ごとの違いなども見ることができ、また中学校のころとは違い学校などへの移動中に自分の考えだけでなく他の人の考えが吸収できたこともよかった。

最初に行った寺岡の児童館では、初めのうちはなかなか自分から話しかけることはできなかったけれど、2日目からはせっかく参加しているのに消極的でいけないと気持ちをしっかり切り替えることができた。3日目は一歩踏み出すことができたおかげか名前を覚えてもらうこともできた。移動中に名前を呼ばれながら駆け寄ってきてもらえたときは、自分もちゃんとコミュニケーションをとることができていたんだなあ嬉しくなった。

白百合のSKIPでは、普通の児童館と違い、6年生までいるのが印象的だった。低学年と高学年では反応も全然違って、1,2年でも上級生という意識でガラッと変わるんだなと思った。また、女子だけという環境も独特なもので、男の子がいない分活発でガツガツと向かってきてくれて最初から割とすんなりとなじむことができた。また期間も少し長かったため、たくさんの人と関わることができた。

どちらも最後の日に次はいつ?と聞かれて少しさみしい気持ちになったけれど、それぐらい短期間で仲良くなれたと思うと温かい気持ちになれた。また帰省中いとこと過ごしていたら、2週間と少しの間小学生と接していただけあって、小さい子との関わり方が上手になっていると言ってもらえて、自分の中に経験として残っていることが少し誇らしい気持ちになった。(H.N)

◆寺岡児童センターとSKIPと、どちらのボランティアも参加しましたが、それぞれの良さは異なるものの、どちらも子どもたちがのびのびと過ごすことのできる空間で、生き生きとした子どもの姿を見ることができた。自分の可能性を自分で決めさせずに、できないという子にもできるように促している先生たちの背中をみていると憧れるものがあった。

また、みんなで協力し合いながら、カプラを作っていく子どもたちは作り上げた作品をみて、とても達成感に満ちていたように見えた。子どもたちの顔を見てみると、私自身も嬉しくなった。

子供たちの言葉は素直だからこそ、一言二言で、その子の性格はすぐに理解することができた。小さい時は小さいと時なりの”我”があり、だんだんと歳を重ねるにつれて”我”が何なのか分からなくなっている中で子どもたちをただ見ているだけで、ふと考えさせられることがあった。

今回のボランティアで吸収したたくさんのことが、これから生きていく中で生かされる時が来ると思う。

(H.K)

◆私はボランティアに8月1日～3日の間に参加しました。昔から子どもが好きで、保育士を目指しているということもあり、今回のボランティアは自分にとってとても良い経験となりました。

1日目。初めてのボランティアで、前日は緊張と不安でいっぱいでした。いざマリアハウスに行ってみると、元気よく私のもとへ子どもたちが駆け寄ってきてくれて、とても嬉しかったです。

2日目。前日の慣れもあったおかげで、子どもたちへの接し方も分かるようになりました。そのボランティアに参加していたのは私1人だったので、たくさんの子供たちをみてあげられるか不安でしたが、何とか乗り越えられました。

3日目。その日、子どもたちが私にお手紙をくれました。この三日間で少しでも多くの子どもたちに覚えてもらえたと思うと、とても嬉しかったです。

三日間のボランティアで私は子どもの行動や考えること、話しかけ方、接し方、今まで気付かなかったことに気づけました。そして、1日1日過ごしていく中で子どもたちから「しの先生」と呼ばれるたびに「ああ。やっぱり子どもと接する仕事はいいなあ」と改めて感じました。私が目指しているのは保育士なので、ボランティアで過ごした子どもたちとはもう少し歳が下になります。ですが、今回学んだことを進学先の学校の実習などで活かせるといいなと思っています。とても充実した三日間でした。(S.S)

(4) 高大連携を通じた「学び直し」と「発展的学習」 【★大学生との座談会型】

〔概要とねらい〕

併設大学である仙台白百合女子大学と連携し、学生ボランティアを募集、生徒の「学び直し」と「発展的学習」を支援してもらう。このプログラムを通し年齢の近い大学生と定期的に接することで、社会性を伸張し自己肯定感も合わせて涵養したい。今年度は、仙台白百合女子大学の教職を目指している学生が実習を兼ねて来校し、本校生徒との懇談を行った。学生は、主に金曜日に2人で来校、月ごとの来校回数は下記の通りである。

【連携した外部機関、外部人材】

・仙台白百合女子大学 教職担当科、 仙台白百合女子大学 学生

【実施状況】

5月-----2回
6月-----4回
7月-----3回
8月-----1回
9月-----1回
12月-----3回
1月-----3回



(5) EOP 講座 【★座学的体験活動型】

〔概要とねらい〕

本校は、水曜日と土曜日にスクーリングを行っているが、自由登校日の[火・木・金]を利用して、EOP[エンカレッジ・オリジナル・プログラム]を設定し、様々な学力アップ講座、体験講座を開講している。生徒は興味・関心に応じて自主的に講座を選択、視野を広げ、学習意欲を高めることができる。体験講座では協力・協働を通して社会性を養うことができる。本研究で実践し検証する学習プログラムは、外部講師に依頼する「パッチワーク講座」及び「英会話講座」「TOEIC 対策講座」である。

【連携した外部機関、外部人材】

・「パッチワーク講座」 --- 荒川潤子氏
・「英会話講座」「TOEIC 対策講座」 --- 高木ジョナ氏

【実施状況】

・「パッチワーク講座」 〈隔週金曜日〉
・「英会話講座」「TOEIC 対策講座」 〈毎週火曜日〉



「パッチワーク講座」



「英会話講座」「TOEIC 対策講座」

(6) 修養会 【★座学的体験活動型】

〔概要とねらい〕

修養会とは、聖書の言葉に心を重ね、自分の生き方を振り返る時間である。本研究で示した指標のうち「弱者への視点と奉仕の精神」に基づいて計画され、「2 つの講話」と「振り返り」から構成される。本年度の講話の講師は、仙台在住の聖パウロ修道会のシスターである。

【連携した外部機関、外部人材】

・聖パウロ女子修道会 シスター長谷川昌子 氏

【実施状況】

- ・実施日時 ; 平成 28 年 11 月 4 日(金) 10:30 ~15:00
- ・実施場所 ; 仙台白百合学園高等学校 多目的室
- ・講師 ; シスター長谷川昌子氏 (聖パウロ女子修道会)
- ・実施内容 ; テーマ「“My Pleasure～私を平和の道具にしてください～”」
- ・時 程 ; 10:30～11:30 第一講話 ～聖書に親しむ～
(昼食休憩)
- 12:30～13:30 第二講話～マザーテレサについての DVD、「神様への手紙」～
- 13:40～14:30 みことばの祭儀
- 14:30～15:00 振り返り



(7) クリスマス会 【★座学的体験活動型】

〔概要とねらい〕

本研究で示した指標のうち「弱者への視点と奉仕の精神」に基づいて計画され、講話、キャンドルサービス、茶話会等で構成される。講話の講師は、児童養護施設「仙台天使園」副園長の土倉相氏である。

【連携した外部機関、外部人材】

・社会福祉法人 ロザリオの聖母会 児童養護施設「仙台天使園」副園長 土倉相 氏

【実施状況】

- ・実施日時 ; 平成 28 年 12 月 20 日(火) 13:30 ~15:30
- ・実施場所 ; 仙台白百合学園高等学校 視聴覚室、ステラマリス
- ・実施内容 ; 時 程 13:30 開会の挨拶
講話「本当のクリスマス」 講師 ; 土倉相 氏
14:30 茶話会
15:30 閉会



(8) 保護者向けワークショップ 【保護者対象コーチング型】

〔概要とねらい〕

保護者対象の行事として、保護者会時に下記のワークショップを行う。引きこもりがちで家庭で過ごすことが多い生徒にとって、家庭での保護者の対応の仕方による影響は大きく、保護者研修は、生徒の心の安定をもたらすためにも有用なことである。今年度のセミナーの講師は、「さかた教育コーチング研究会」代表;高山彩子氏に依頼した。

【連携した外部機関、外部人材】

講師--- E-Sta. 庄内 さかた教育コーチング研究会 代表 高山彩子氏

【実施状況】

実施日-----7/16(土) 10:00~11:30 保護者会で実施(聖堂大会議室)

テーマ-----「子どもが驚くほど伸びる 魔法のパパ・ママ コーチング」



保護者の感想

- ・「自分が子どもの言葉を真剣に受け止めていないことに気がついた。」
- ・「これまで子どもに、かなり否定的で後ろ向きな発言ばかりしていた。」
- ・「ただ聴いてあげることが、子どもの安心感につながるということが分かった。」

ワークショップでの配布プリントから

人は育とうとする生き物

人は、より良く生きようとする意欲や能力をそれぞれに持っています。もし、意欲がない、向上心がない、行動を起こさない等の状況にある人がいたとしたら、その人の中に意欲や能力の発揮を「邪魔している何か」が存在するのだ、と考えます。ですから、成長や成功のために必要なのは、その邪魔を取り除くことなのです。

ところが私たちは、子どもを「何も知らない人」「何も持っていない人」、つまり「未熟な存在」としてとらえ、「教えてやる」「知識を与えてやる」「できるようにしてやる」という姿勢、つまり「ティーチング」のスタンスで関わりがちになります。それが「コントロールしよう」⇔「コントロールされまい」という「力比べ」に至り、対立や隔絶に陥るケースも多々あります。

教育コーチング、パパ・ママコーチングの成果

コーチングは、相手の「目標達成」を支援します。その達成は、コーチが作りだした成果ではなく、あくまで相手が自らの意志と力で手にした成果です。ですから、確かな「喜び」が伴います。この喜びこそが「より以上を目指す」エネルギーの源泉となります。

また、達成に向かうプロセスの中で、コーチは「教える」ことをしません。多くの「質問」を相手に投げかけるだけです。相手はコーチの質問により、様々なものごとをとらえ、感じ、考えるわけです。それにより、①目標設定能力、②自己管理能力、③問題解決能力、④行動力・実践力、⑤コミュニケーション能力が養われます。まさに「自立」です。

つまり、コーチングは、「得たい成果」と「成長」を同時に実現する構造を持っているのです。

③ 「指標」に基づいた、探究活動の設計と実施状況

《探究活動の目的》

この調査研究で設計する学習プログラムの実践の過程で重視したのが「探究活動」である。上記の外部機関と連携して行う探究活動以外にも、下記の「総合的な学習の時間」や学校設定科目「グローバル・スタディーズ」などで探究活動を行う。

探究活動とは、ある課題を設定し、背景や原因を探りながら課題に対する結論を導き出す作業である。この過程で、受け身ではない能動的な姿勢や、問題解決力、チャレンジ精神を育てることができる。今、アクティブ・ラーニングが注目されているのも同じ理由からである。

さらに、この探究活動時に「IT 機器」を活用すると、生徒の社会参加への意欲をより高めることができる。IT 機器を活用することは、現代の社会に関わるうえで必要なスキルを身につけるとことにつながり、生徒のキャリアへの関心や進路達成への意欲を高めることができるからである。

《主な探究活動》

- ・ 総合的な学習の時間
 〈主な内容〉 「総合 B」「総合 C」「総合 D」
- ・ 学校設定科目「グローバル・スタディーズ」

① 総合的な学習の時間

- 「総合 B」 1 「地球家族」という写真を使い、地球の様々な暮らしや、本当の豊かさを学ぶ。
 2 「地球の食卓」という写真を使い、世界の食の違いや、食の豊かさについて学ぶ。
- 「総合 C」 1 “もったいない”をテーマに、【KJ 法】で自分と地球の関係を知る
 2 “平和”をテーマに【言葉の貯金箱】という手法で、自分と平和の関係を考える
- 「総合 D」 1 「志望理由書」や「小論文」を通して自分の将来を表現する。
 2 「面接」や「プレゼンテーション」を通して、自分の未来を考える。



② 「学校設定科目・グローバルスタディーズ」のスクーリング時

本校は、新しい時代に対応した教育プログラムとして、28年度のカリキュラムより、学校設定科目「グローバル・スタディーズ」を開設した。この科目のねらいは、自分と地球規模の問題との関係に気づき、社会に対する責任意識を高め、地球の一員として、問題解決に向かう姿勢と行動力を身につけることにある。この科目で重視するのが「探究活動」である。後期は、各自、テーマを設定し、探究に取り組み、レポート作成、発表(パワーポイントやポスターセッション)を行った。

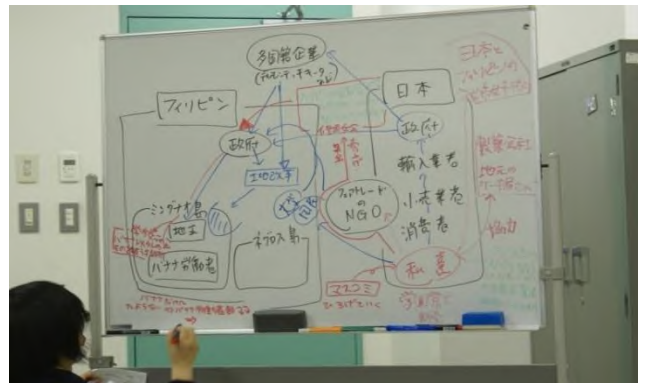
「グローバルスタディーズ」内容予定(シラバスより)

「グローバル・スタディーズ」のねらい

自分と地球規模の問題との関係に気づき、地球の一員として、問題解決に向かう姿勢と行動力を身につける。

学習内容

- 1 “身近なもの” から世界を考える ①(チョコレート、ケイタイなど)
- 2 “身近なもの” から世界を考える ②(バナナ、コンビニ など)
- 3 探究活動 「“私”の一步が社会を変える!?
- 4 探究活動発表会



④ 学習プログラムや探究活動のために購入した「設備備品」の使用状況

■移動式テレビモニター、DVD/BD プレイヤー（各1台）

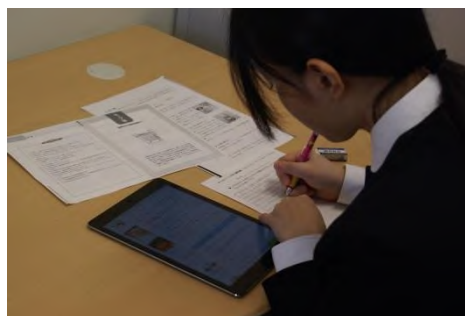
各教科のスクーリング、総合的な学習の時間、ホームルーム活動の全体集会、EOP(エンカレッジ・オリジナル・プログラム)の各講座、学校設定科目「グローバルスタディーズ」などで、頻繁に使用した。



■タブレット端末(5台)、パソコン(4台)

① 学校設定科目「グローバルスタディーズ」での探究活動

この活動では、前述したように、「身近なモノと地球とのつながり」というテーマで探究活動を行った。生徒は、チョコレート(カカオ)、ハンバーガー(ファーストフード)、コンビニ、ペットボトル(の水)、コーヒー、カップ麺、割り箸、牛肉、豚肉、100円ショップ、エビ、マグロ、大豆、原発、ダイヤモンドなどの中から1つ選び、その「身近なモノ」が世界とどのようにつながっているか、タブレットやパソコン、書籍等で探究し、[1 テーマ設定の理由 2 問題の構造[図解] 3 問題解決に向けて 4 問題解決にむけてのアクション・プラン]の構成でポスターにまとめ、ポスターセッションの形式で発表した。



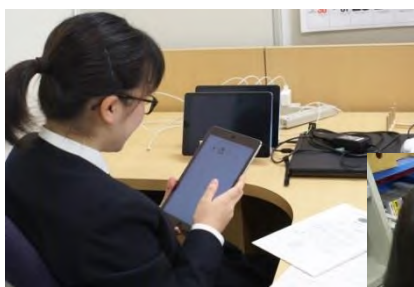
② 進路に関するホームルームでの検索

学年毎に行われるホームルーム時の「進路」の時間に、進路志望校の検索のために使用した。



③ 自主学習時での使用

「社会と情報」「情報応用Ⅰ」「情報応用Ⅱ」のスクーリング時に、タブレット、パソコン等の情報端末の使い方を学習し、他のスクーリングや総合的な学習の時間の調べ学習、学習室でのレポート作成、視聴教材を使っているレポート作りなどに頻繁に使用した。購入前は、学習室にパソコンが1台しかなかったため、生徒の学習活動の幅は格段に広がった。



■KAPLAブロックと、その使用に関する参考図書

前述した「With Kids ボランティア」で、児童センターや併設小学校の訪問時に持参した。本校の生徒と子どもたちとのコミュニケーションツールとして有効だった。



(3) 外部機関と連携した教師の教育力向上のための会議や研修会の設定

① 「スクール・ソーシャルワーカー(SSW)」による支援

一般教員は、特別な支援を必要とする生徒の指導については専門性を持たず、その支援方法に苦慮することもある。その時に必要なのがスクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカー(SSW)など専門家の教員へのアドバイスである。特に SSW は、家庭と学校、そして児童相談所などの外部機関をつなぐ役割をし、教員への的確な助言が期待できる。本校では、仙台白百合女子大学から定期的に SSW を派遣してもらい、ミーティングや情報交換を行い、生徒の支援方法について示唆を受けた。

第1回 SSW のミーティング

日時 ; H28年4月21日(木) 13:30~14:50
場所 ; 仙台白百合学園中高 GVセンター
出席者 ; 仙台白百合女子大学 嘉村藍(SSW)
仙台白百合学園中高 平井美弥(スクールカウンセラー)
仙台白百合学園高校 通信制課程 阿部和彦、宮崎哲、鈴木有子

《内容》

- 1 参加者紹介
- 2 仙台白百合学園高等学校 通信制課程 エンカレッジコースの概要紹介
- 3 注意を要する生徒についての情報交換
- 4 今後の会議の進め方

第2回 SSW のミーティング

日時 ; H28年6月9日(木) 15:30~16:50
場所 ; 仙台白百合学園中高 GVセンター
出席者 ; 仙台白百合女子大学 白川充、嘉村藍(SSW)、松崎吉之助(SSW)
仙台白百合学園中高 戸村たつひ、平井美弥
仙台白百合学園高校 通信制課程 阿部和彦、宮崎哲、清田拓郎、鈴木有子

《内容》

- 1 前回の会議録より
- 2 後の会議の持ち方と、ECコースでのSSWの在り方
- 3 エンカレッジの生徒の概況報告
- 4 生徒の支援方法についての協議

第3回 SSW のミーティング

日時 ; H28年9月8日(木) 15:30~17:00
場所 ; 仙台白百合学園中高 ; GVセンター
出席者 ; 仙台白百合女子大学 ; 嘉村藍(SSW)、松崎吉之助(SSW)
仙台白百合学園中高 ; 戸村たつひ、平井美弥
仙台白百合学園高校 通信制課程 ; 阿部和彦、宮崎哲、清田拓郎、鈴木有子

《内容》

- 1 転編入学生について
- 2 生徒の夏休みの様子(行事などについて)
- 3 今後の主な行事
- 4 生徒の支援方法について
- 5 他の生徒についての情報交換、質疑内容

第4回 SSW のミーティング

日時 ; H28年11月17日(木) 15:30~16:30
場所 ; 仙台白百合学園中高 ; GVセンター
出席者 ; 仙台白百合女子大学 ; 嘉村藍
仙台白百合学園高校 ; 阿部和彦、宮崎哲、清田拓郎、鈴木有子

《内容》

- 1 転編入学生
- 2 最近の行事などについて
- 3 今後の主な行事
- 4 生徒の支援方法について

② 研修会参加

本校は、平成27年12月に「全国高等学校通信教育研究会」に入会、28年6月の総会で正式に承認された。そこで、この研究会が主催する諸研修に積極的に参加し、生徒の支援体制や外部と連携した運営組織などを学び、本調査研究に活かしてきた。また、全国や地区の通信制教育研究会には、生徒対象の研修会や発表会もあり、他校の生徒と接することによる自己研鑽のためにも、参加の機会を与えたい。今年度、参加した研修会は以下の通りである。

① 第68回全通研総会並びに研究協議会

日時 ; 平成28年6月16日(木) ~17日(金) 場所 ; 和歌山県和歌山県民文化会館
《内容》 ・研究協議会-----学校運営、教育相談、人権教育、各教科などの分科会
・記念講演 など

② 東北・北海道地区高等学校通信制生徒生活体験発表大会

日時 ; 平成28年10月15日(土) ~16日(日) 場所 ; 青森市(青森県立北斗高等学校)
《内容》 通信制高校での学校生活から得たことを弁論形式で発表。全国大会の予選でもある。
前日は、開催地である青森(三内丸山遺跡)の見学会も行われた。

③ 全通研研修会

日時 ; 平成29年1月6日(金) 場所 ; 東京都国立オリンピック記念青少年総合センター
《内容》 通信制課程におけるICTを活用した遠隔教育の普及に関する研修会

《研修会報告》

1 第68回全国高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会

主催 全国高等学校通信制教育研究会
近畿地区高等学校通信制教育研究会
期日 平成28年6月16日(木)、17日(金)
会場 和歌山県民文化会館

《主な内容》

- 1 開会式
- 2 総会

3 文部科学省 講演

演 題 「高等学校教育をめぐる最近の動向」
講 師 柿崎 雄二 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
教育制度改革室高校教育改革 PT 専門官

〈内容〉1 高等学校教育をめぐる最近の動向
・教育課程の改善に向けた検討状況
・高大接続改革
・選挙年齢引き下げに係る対応について
2 広域通信制に関する集中改革プログラム
～我が国の広域通信制高校の教育・運営の改善に向けて～

4 記念講演

演 題 「クロマグロの完全養殖研究について」
講 師 升間 主計 氏 (近畿大学水産研究所 所長)

5 研究協議会 [第1分科会；学校運営]

(1) 「中央高校通信制の現状と課題」

山梨県立中央高等学校 教頭 渡部和

〈主な質疑や協議事項〉

- ・音信不通の不活動生は、そのままでは就学支援金の48カ月は消費、「休学」届を出せば一時停止される。
学則に「受講手続きをしない場合は休学扱いとなる」と明記し保護者にも周知することで、音信不通者を「休学」とすることもできる。
※7～8割の学校は休学制度がある。
- ・入試は、面接、作文、筆記試験(国・英・数・常識、各25点ずつ)
他の生徒に脅威となる生徒は不合格にしている。(昨年度は6人不合格)
- ・発達障害や知的障害のある生徒は、SSWが入り県内の就労支援センターへ
- ・家庭訪問は行わない。学校へ来ることが前提なので、文書、Tel等で登校を促す。

(2) 「課程間併修制度の現状と未来を考える」

～全日制・定時制・通信制、各課程生徒への支援策として～

神奈川県立厚木清南高等学校 教頭 田上 英輔
千葉県立千葉大宮高等学校 教頭 飯塚 恵一
栃木県立宇都宮高等学校 教頭 富永 孝昭
東京都立一橋高等学校 副校長 小川 孝

〈主な質疑や協議事項〉

- ・定時制の生徒が通信制で修得する併修を取り入れている学校は多い。
- ・通信制の生徒が、全日制で特定の科目(通信制にはない理科の上位科目など)を履修(週1回など)させるケースもまれにある。
- ・全日制の高校で、不登校気味の生徒を通信制で修得させる学校はほとんどない。
(安易な修得は生徒のためにならない、という理由)
- ・全通の連携により、特別講師の受験指導と通信の単位修得を組み合わせ、スーパー受験校を作ることができる?

【研修を終えて】

一部の株式会社立広域通信制高校の不正行為とマスコミ報道は、通信制高校全体に対するイメージダウンにつながったが、この研修会に参加して、事例発表や質疑応答の熱気から、ほとんどの通信制高校は真摯に教育に取り組んでいることを実感することができた。文科省の講演では「通信制高校の改革プログラム」が提示されたが、今回の問題が、通信制高校の意識を引き締め教育内容がより充実する良いきっかけになることを願っている。通信制教育は、多様な事情を抱えた生徒を、自ら学ぶ学習者として自立させることができる柔軟な教育システムで、創意工夫をダイレクトに生徒に反映させることができる制度であることを今回の研修会で参加者一同確認することができた。この研修会は、参加者にとって、教育の原点とも言える通信制教育に、様々な困難を乗り越えて取り組もうとする使命感を高めるものとなった。

2. 東北・北海道地区高等学校通信制生徒生活体験発表大会

主催： 東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会

日時： 平成28年10月15日（土）～16日（日）

会場： 青森県立北斗高等学校 体育館

日程： 10月15日（土）集合→三内丸山遺跡見学→北斗高校→抽選

10月16日（日）開会式→発表→表彰式・閉会式→集合写真撮影

《各校の発表者・演題》

- ◆北海道有朋高等学校「中学生からの卒業」、「今の自分と昔の自分を見つめて」
- ◆星槎国際高等学校・札幌学習センター「普通って何だろう」
- ◆星槎国際高等学校・郡山学習センター「言い訳人生と決別」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・本校「進化と変化」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・宮古分室「過去と私」
- ◆岩手県立杜陵高等学校・奥州校「両足の記憶」
- ◆宮城県立美田園高等学校「みんなちがってみんないい」、「導かれて」
- ◆仙台白百合学園高等学校「つながる力、未来へ」
- ◆秋田県立秋田明徳館高等学校「私らしく生きる為に」
- ◆山形県立鶴岡南高等学校「高校は未来の道標」
- ◆山形県立霞城学園高等学校「これまでの私、これからの私」、「夢を気付かせてくれた霞城学園」
- ◆福島県立郡山萌世高等学校「通信制Days」
- ◆青森県立尾上総合高等学校「決断～後悔したけれど、今は幸せ～」
- ◆青森県立八戸中央高等学校「私の時間の使い方」
- ◆青森県立北斗高等学校「精一杯生きる」

《研修を終えて》

地区通研に加盟している北海道および東北6県の通信制高校が集まり、総勢18名の代表者が発表を行った。宮城県からは本校1名と美田園高校2名の代表を選出した。大会前日には三内丸山遺跡を全員でまわる研修ツアーもあり、生徒同士が交流するとてもよい機会となった。大会当日の生徒発表に関しては持ち時間7分間が認められ、それぞれが思いを込めて堂々と壇上で発表を行った。通信制に通うことで生活のリズムが変わり、周囲への意識が芽生え、感謝の気持ちや未来への希望がわくなど、本来の自分をいかに取り戻したかという内容に心が打たれた。通信制に関わる関わらないに限らず、一度は彼ら彼女らの主張に耳を傾けることが必要だと強く感じた。大会の様子は録画されてDVDになり、本校の教職員も視聴し、ホームルーム全体会で生徒にも紹介して今後の教育活動に役立てている。

「つながる力、未来へ」

仙台白百合学園高等学校 菅原 愛

私が仙台白百合学園高等学校通信制課程エンカレッジコースに入学して、まもなく半年が過ぎようとしています。私は時々父の手伝いをします。私の父は、カゴ漁の漁師です。牡蠣やめかぶなどの養殖業や、たこやあなごなどのかご漁などを行っています。小さいころから家族で父の仕事を手伝うのが恒例でしたが、私が通信制に入ってから、自由な時間が多くとれるようになったので、父の仕事を手伝う時間が増えました。先日も、夕方父と二人で海に出で、籠入れをしている父の代わりに船のハンドルを握って父の仕事を手伝いました。翌日、籠を引き上げるとアナゴがたくさん入っていました。

私が住んでいる宮城県南三陸町のこの穏やかな青い海。今から5年7か月前、この海に黒く巨大な津波が押し寄せました。東日本大震災の発生です。当時、小学校4年生だった私は、いつも通り授業を受けていました。その時、これまで体験したことが大きな揺れに襲われました。私たちは、とっさに……。大きな津波が町に押し寄せたのは、それから数十分たった頃でした。体育館に避難していた私たちは、その光景を見ることはありませんでしたが、建物をなぎ倒し飲みこんでいくあのすさまじい音は、今でも時々思い出されます。高台にあった私の学校は、幸い、被害を受けることはなく、体育館で一夜を過ごしましたが、翌日、家族が迎えに来て、一緒に避難所に向かう途中に見た光景は今でも忘れられません。きのうまでそこにあった街が跡かたもなく消えていて、瓦礫の山がそこを覆っていました。大好きだった青い海は、まっ黒に染まっていました。

あれから5年半がたち、私の町、南三陸町は、大きく変わりました。まだ、復興、半ばとはいえ、あの時の瓦礫はすっかり片付けられ、土地がかさ上げされ整地が進んでいます。大きな犠牲は伴いましたが、多くの人がつながり、支え合ってここまでできたのは、子どもながらに感じています。そして私も、あれから5年半の年月が流れ、今、こうして仙台白百合学園エンカレッジコースで学んでいます。私も、ここまで来るのに沢山の辛いことがありました。でも、多くの人に支えられ、沢山の人につながることで強められてきたことを、今、あらためて思い起こしています。

東日本大震災の発生から2年がたち、私は地元の中学校に入りました。順調にスタートするかに思えた中学校生活でしたが、半年が経った頃から、部活動などで私に対する嫌がらせが始まりました。それが原因で私は教室に入ることができず、だんだんと学校にも行けなくなってしまいました。そんな時に相談に乗っていただいたのは、時々学校に行った時に話を聞いて下さったカウンセラーの先生でした。教室に入れないうちから中学校3年になり、進路の事を考え始めた時にアドバイスを頂いたのも、そのカウンセラーの先生でした。先生は、高校には、「通信制」という制度があることを紹介してくれました。当時、私は、通信制という制度についてほとんど知識はなかったのですが、先生が紹介してくれた仙台の幾つかの通信制高校の説明会に行ってみることにしました。それが、仙台白百合学園高校エンカレッジコースとの出会いでした。幾つかの通信制高校を訪ねましたが、その中で一番いいなって感じたのがエンカレッジコースでした。今まで授業を受けられなかった私にとって、基礎をしっかりとサポートしてもらえることや、週1回程度のスクーリングは、仙台から遠くに住んでいる私でも通えそうなこと、また、いろいろな行事があり、学校生活が充実出来そうなことなどが、エンカレッジコースを選んだ理由でした。受験を決めた後は、担任の先生をはじめ沢山の中学校の先生が、受験のアドバイスや面接の指導などをしてくれ、私を応援してくれました。そのおかげで無事合格することができ、先生方はとても喜んでくれました。この時期、一番、私の事を心配していたのは、私の家族でした。合格した時の父と母のほっとした顔を私は今でも覚えています。

こうして、今年の4月、私はエンカレッジコースの門をくぐりました。期待と不安が入り混じった入学式では、たくさん悩み苦しんだ過去に終止符を打ち、心機一転新しい生活を築いていくことを決意しました。そして今、私はとても充実しています。友達もでき勉強の方も順調に進んでいます。学校に来れば信頼できる友がいて、沢山おしゃべりをしたり、体育校外スクーリングや学園記念日、学園祭などの行事も充実しています。中学校の時とは考えられないほど明るく過ごしています。

今年の夏は、エンカレッジコースが行っているボランティア活動に参加しました。この活動は、NPO と連携して被災地の石巻を訪れ、現地の人々と交流することで、その後の復興のお手伝いをし、私たち若い世代も、被災地を心に留め、交流を通して大事なことを学んでいこうというものです。今年のボランティアは、石巻の、ある神社を活動の中心として、2泊3日で行いました。少し高台にあるこの神社は、石巻に津波が押し寄せた時、ここに避難した200人もの命を救ったことから「奇跡の神社」といわれています。小さな神社で、中に入ってみるととても狭く、200人の人が入れたとは信じられません。まさに奇跡の神社です。神社の宮司さんから当時の話を伺うことが出来ました。ここに沢山の人が身を寄せ合い、足首まで迫ってくる津波に耐えながら一晩を過ごしたそうです。その後も、駆けつけてくれたボランティアの人々の協力のもとに、少しずつ、瓦礫の撤去や花壇づくり、公園づくりが行われてきました。5年たった今は、何事もなかったように、神社の周りには花壇ができ、公園が整備され、まだまばらですが住宅も立ち並び始めています。ここで私たちは、地元の人たちや東京から来た大学生の方々と、花壇に生えた雑草を取り、公園を清掃しました。

汗を拭きながら草を取っていると、目の前の石巻の風景に、あの時の南三陸町の情景が重なりました。散乱した瓦礫、黒い海の水……。でも、石巻も、南三陸町も、多くの人々の助けと協力の中で人と人がつながり、それか大きな力になってここまで復興することができたのです。この奇跡の神社で、そのことをあらためて実感することが出来ました。

先日、私の誕生日に、半年ぶりに幼馴染から電話が来ました。震災の時に離れ離れになり、その後は時々、電話だけで連絡をとっている幼馴染です。「高校はどう？」と聞かれ、「楽しくやっているよ」と答えたら、彼女は、「良かった、安心した。」と言ってくれました。その言葉を聞いて私はとても心が暖かくなりました。何年も離れていても、彼女とのつながりは薄れることなく、ずっと支えてもらっていると感じました。このつながりを、ずっと大事にしていかなければならないと、その時私は、心の中で誓いました。

私は、これまで、先生方、友達、そして家族と、多くの人々に支えられ、ここまで来ることが出来ました。人と人は、つながることで、支え合い、強めあっていきます。一人では小さく弱い力も、つながることで大きな力に変わっていきます。それが私たちを前へ進めてくれるのです。これからは、このエンカレッジコースで更に多くの事を学び、いろいろな人と出会い、これまで自分が支えられてきたように、今度は、自分が周りの人々を支え、人々をつなげる役割りを担っていきたいと思っています。「つながる力」とは、「人を支えようとする心」と、「共に強め合う行動力」です。私は、この「つながる力」を未来につなげていこうと、今、強く感じています。

私には夢があります。外国と日本をつなぐ仕事をする事です。今、世界を見渡すと、国と国が争い、不幸な事件が頻発して多くの命が失われています。今、必要なのは、国や宗教の対立を越えて、一人の人間同士として理解し合い、手をつなぐことです。私は海外でいろんな文化や語学を学んで、将来日本と外国、そして人と人をつなげる役割りを積極的に果たしていきたいと考えています。4年後には東京オリンピックが開かれます。この国境を越えた祭典で、いろいろな国からやってくる人々をつなげる仕事が出来たら最高です。

先週、また父と、南三陸の海に船を出しました。父は、震災後、奇跡的に残っていた船を修理し、多くの人に支えられて、今、再び自分の船で漁をしています。籠をあげる父の背中を見ていると、そんな父を支えてきた人々のぬくもりが伝わってきました。籠が上がってきて、父は嬉しそうな表情で籠の中を見ていました。その父のうしろには、青く静かな南三陸の海が広がっていました。



3. 全通研研修会

主 催： 全通研 e ラーニング研究委員会・全通研事務局

日 時： 平成29年1月6日（金）午後1時～4時30分

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

《研修会主題》

「学習支援に向けたホームページ活用
～学習支援コンテンツ作成に向けた実演研修～」

《主な内容》

◆開会

- ・主催者挨拶
- ・指導助言者紹介 早稲田大学人間科学学術院 准教授 森田祐介氏
- ・研修担当者紹介 日本マイクロソフト社

◆e ラーニング研究委員会からの報告

- ・学校のサイトを活用した学習活動に関する調査」結果について
- ・「全通研なるほどネット」紹介

◆学習支援教材作成に向けた研修

- ・日本マイクロソフト社による講習

◆指導助言・講演

- ・早稲田大学人間科学学術院 准教授 森田祐介氏

◆質疑応答・研究協議

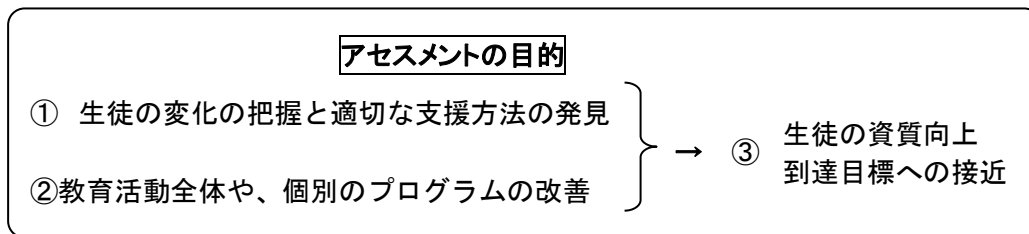
《研修を終えて》

いかに教材づくりをするか、どれだけ魅力あるコンテンツを生徒に見せ、興味を集めることができるか等…ICTの可能性を大いに感じる講習であった。特に動画編集やパワーポイントを使った実演講習では今まで使ったことのない機能を示していただき、実に学ぶことが多かった。教育現場では更に活用の幅を広めるであろうICTについて、これを機に、より研究に励んでいきたいと感じた。今後も全通研の研修会には積極的に参加し、学び得たことを本校の教員にも伝え、皆で共有したいと強く感じた。

3. 上記の一連の取り組みに対するアセスメントの実施

(1) 生徒の資質向上のためのアセスメント方法の開発

①アセスメントの手順



5月

「数値的自己評価」の実施

10月

中間アセスメント検討会議（外部助言者を招いての中間報告と助言）

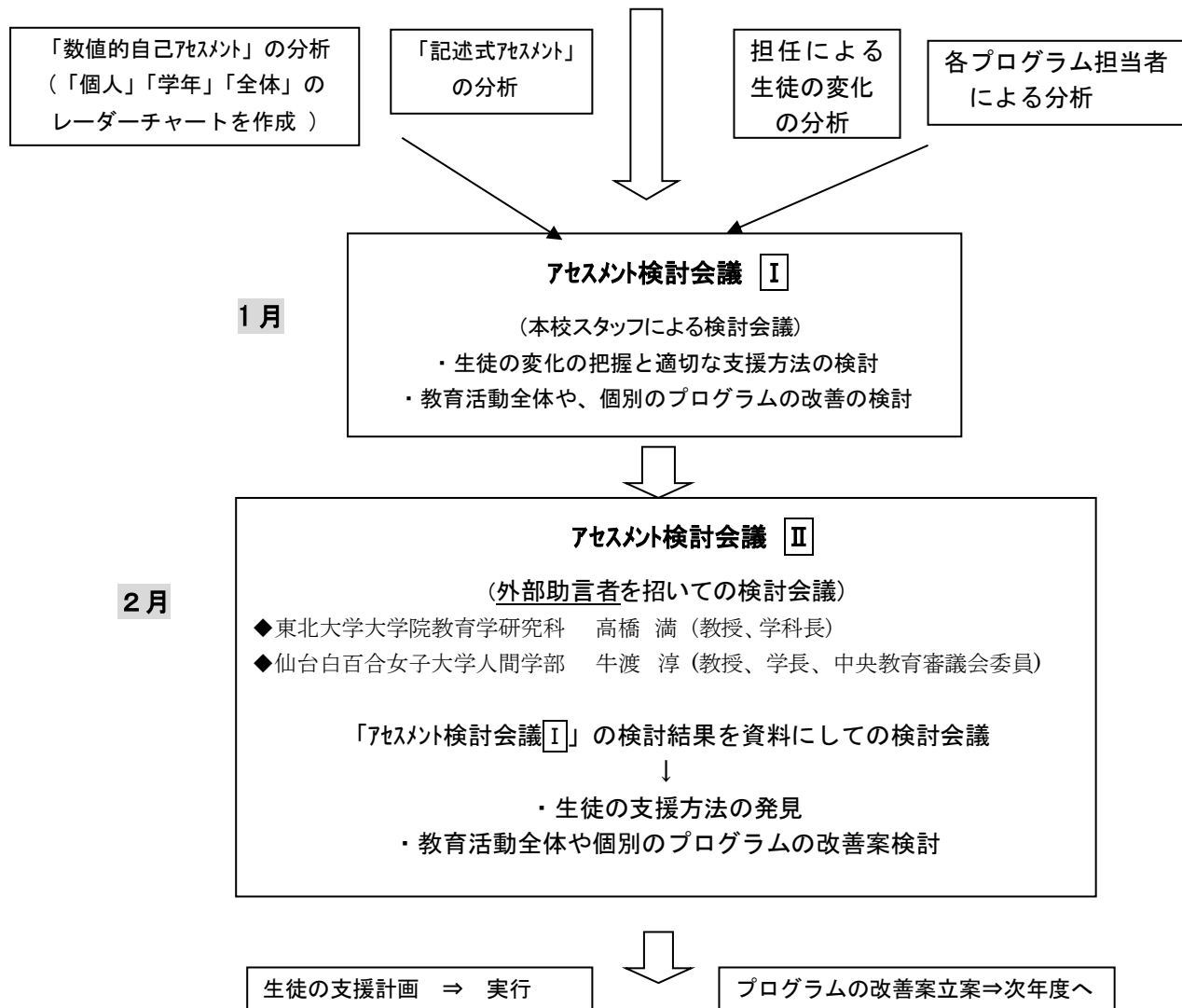
11月

「数値的自己評価」と「記述式自己評価」の実施

12月

「面接」； 生徒と教師による協同アセスメント

【「外部連携プログラム」終了ごとにアンケート実施】



②アセスメントの方法

5月 生徒による数値的自己評価

※ 5月と11月に記入、数値を比較し、変化を分析する。

◆今の自分をチェックするために、それぞれの指標を5段階で評価して下さい。 [5 :とても思う 4 :まあまあ思う 3 :どちらとも言えない 2 :あまりそう思わない 1 :そう思わない]			評価
自己理解力	自分の個性に気付き、自分の良さを受け入れることができる。	①自分の性格・関心・能力に気づいている	
		②今の自分を築いてくれたこれまでの出会いに感謝することができる。	
		③自分の良さを受け入れることができる。	
		④自分の良さを将来に活かすための生き方を探究している。	
コミュニケーション力 協働する力	他者の意見を受け入れ、自分の考えを伝えることができる。他者と協力して物事に取り組むことができる。	⑤自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。	
		⑥他者の意見に対する自分の考えを述べることができる。	
		⑦グループの話合いの場で自分の意見を述べるすることができる。	
		⑧発表の場で、自分の意見や学びを効果的に他者に伝えることができる。	
		⑨他者と協力して、ひとつの仕事に取り組むことができる。	
社会参画 意識	社会の一員であることを意識し、自分を社会に活かそうとする志を持つことができる。	⑩社会の出来事に関心を持っている。	
		⑪自分と社会のつながりに気づくことができる。	
		⑫将来、自分を社会に活かそうとする意欲がある。	
		⑬社会の問題の解決のために、身近なことから行動することができる。	
奉仕の精神	弱い立場にある人々へ共感し、他者のために奉仕することができる。	⑭隣人の喜びや悲しみに共感することができる。	
		⑮友の悩みや苦しみを知った時、解決のために行動することができる。	
		⑯思いやりを持って人を支え人をつなぐ役割を果たすことができる。	
		⑰社会の弱い立場にある人々に気づき、彼らのために行動できる。	
		⑱奉仕活動やボランティアに積極的に参加することができる。	
確かな 学力	将来、自分を社会に活かす確かな学力を付けるために努力している。	⑲各教科の基礎的な学力を身につけている。	
		⑳苦手な教科の克服のために努力することができる。	
		㉑学力向上のために計画的に学習に取り組むことができる。	
		㉒将来の進学や就職を意識して学習に取り組んでいる。	

10月

中間アセスメント検討会議

日時 平成28年10月21日(金) 14:00～16:00
場所 グローバル・ビュー・センター

- 内容
- 1 調査研究概要の確認
 - 2 これまでの取り組みの紹介
 - 3 アセスメントの方法について
 - 4 質疑・指導助言



出席者	高橋 満	東北大学大学院教育学研究科長
	牛渡 淳	仙台白百合女子大学 学長
	青木タマキ	仙台白百合学園中学・高等学校 校長
	阿部 和彦	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教頭
	宮崎 哲	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	清田 拓郎	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	鈴木 有子	仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭
	戸村たつひ	仙台白百合学園中学・高等学校 養護教諭

《内容》

学習プログラムの設計について

- ・フォーマル・エデュケーション(制度化された学校教育制度内での教育活動=概して受動的)、インフォーマル・エデュケーション(学習者の自発性や自主性を重視する教育活動=ワークショップ型など→教師はファシリテート役、生徒の諸機能を活性化)、ノン・フォーマル・エデュケーション(社会に参画、人と人との相互作用の中から自ら学びとる形態)を意識して立案するとよい。
- ・ただし、上記のそれぞれの評価方法は課題。(アクティブラーニングの評価も、同じ意味で課題)
- ・認知的なプログラムが多いので、アート、演劇、美術など、自己表現型のプログラムがあるとよい。(道具や準備などが少ないもの、ダンス、ヨガ-----など?)
- ・施設訪問などは、高齢者の話を聴いて、何を感じたか、何を得たかをまとめ、発表し合うことで体験の質を高めることができる。

アセスメントの方法について

- ・アンケートの「(3)～(8)で、どれが一番、有用だったか」という問いがあると、「その生徒にとってどのようなプログラムが有用か」や、「全体としてどのようなプログラムが生徒の成長に効果があるか」という、2つの観点から参考になる。
- ・記述式の中に、「卒業後の進路が、どのようなことがきっかけで明確になってきたか」という質問があると、どのような学びが生徒のキャリア形成に有用かが見えてくる。
- ・数値的变化を生徒にフィードバックし、変化の要因や今後の課題を考えさせるとよい。
- ・個別の生徒のケース・スタディーがあってもよい。
- ・生徒の個別の変化を分析し、これをプログラムの改善に結びつけるという順番か。
- ・保護者から見て、生徒はどのように変化したか、聞いてみるのも有効。

11月 1 生徒による数値的自己評価 (5月と同様のシート)

2 生徒による記述式自己評価 ※ 下記のシートに記入、記述の内容を分析

1 エンカレッジコースに入学する前と現在を比べると、学校生活を意欲的に送ることができるようになりましたか。次から1つ選んで○をつけて下さい。

- ① 当てはまる
- ② どちらかという当てはまる
- ③ どちらともいえない
- ④ どちらかという当てはまらない
- ⑤ 当てはまらない

その理由を書いて下さい。

2 これまでのエンカレッジコースでの学びについて答えて下さい。(3)～(8)については、自分が参加したもののすべてについて、①～③から選択し○をつけて下さい。

(1) スクーリング	スクーリングについての感想を書いて下さい。(印象的なスクーリング、改善してほしいこと、など)
(2) EOP	EOPについての感想を書いて下さい。(良かったEOP、新設してほしいEOPなど)
(2) キャリアプランニング セミナー	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
(4) 野外環境コミュニティー 体験 (ダブルシート 関係)	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
(5) 施設訪問(暁星園)	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
(6) With Kids ボランティア	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
(7) 炊き出しボランティア	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
(8) 大学生との交流	① ためになった ② どちらとも言えない ③ あまりためにならなかった ★その理由を書いて下さい。 []
◆上の(3)～(8)の中で、自分にとって最もプラスになったものはどれですか。(複数可)	

3 エンカレッジコースで過し、自分のどんな点が変わりましたか。
(その変化が上記の諸活動と関係があればその旨を書いて下さい。)

4 エンカレッジコースの学びの中で、自分の生き方や進路に影響を与えたものがあたら書いて下さい。

5 エンカレッジコースの学びについて、要望や改善してほしい点があたら書いて下さい。
(上記(1)～(8)についても、改善点があたら書いて下さい。)

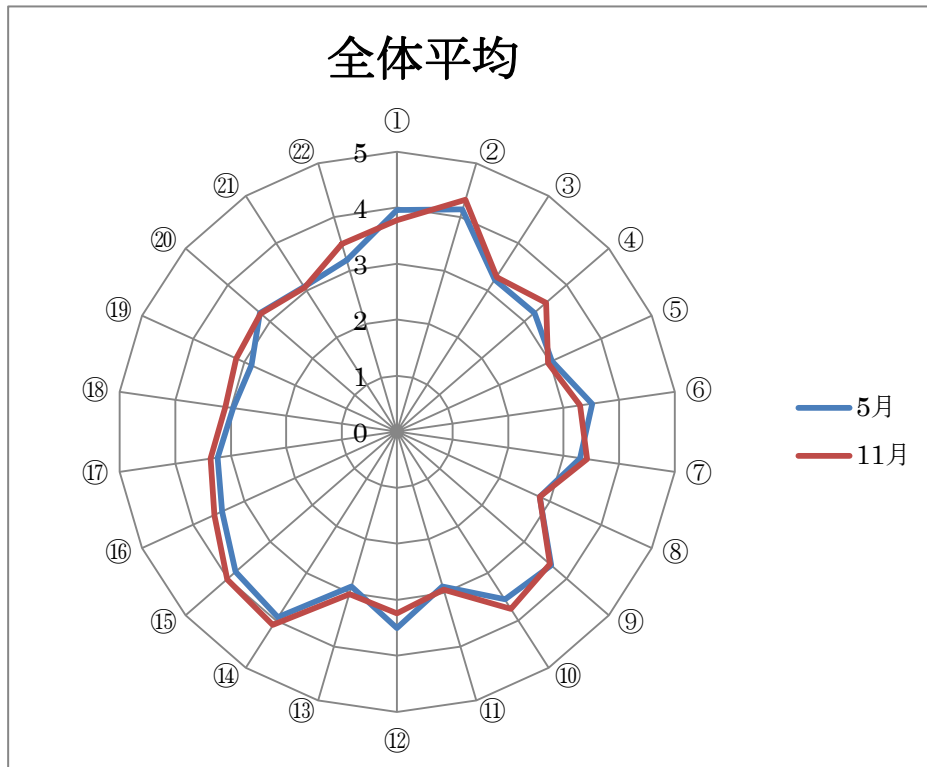
6 自分の学習にたいする姿勢を振り返り、改善しようと思う点は何ですか。

7 現在、困っている事、迷っている事、悩んでいることがあたら書いて下さい。

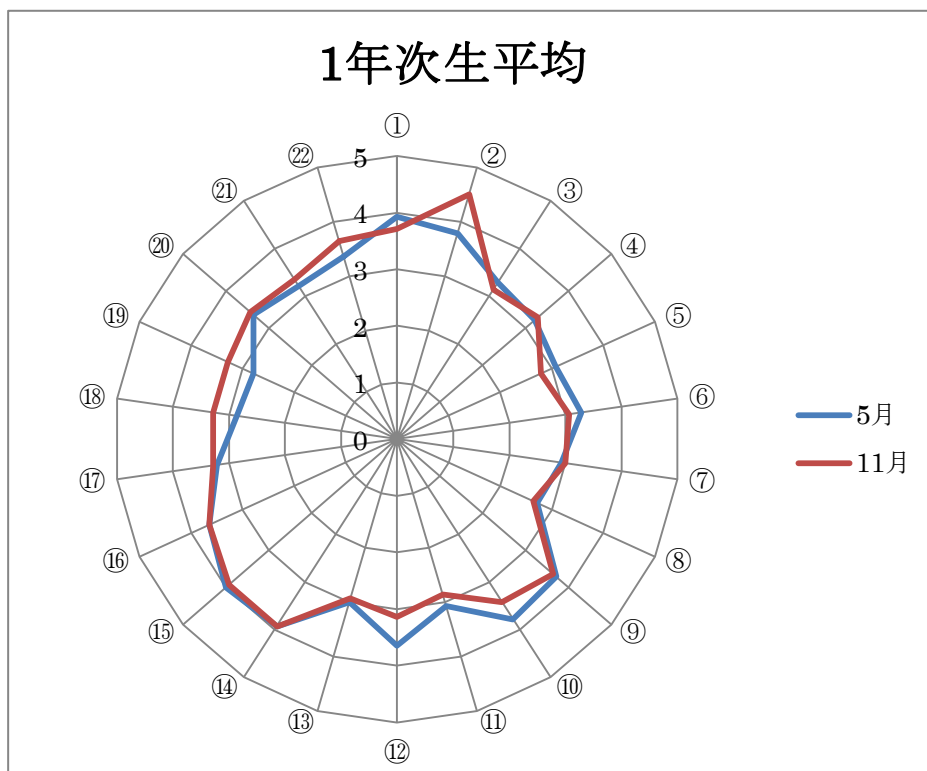
(2)アセスメントの結果と分析

① 5月、11月の数値的自己評価の変化

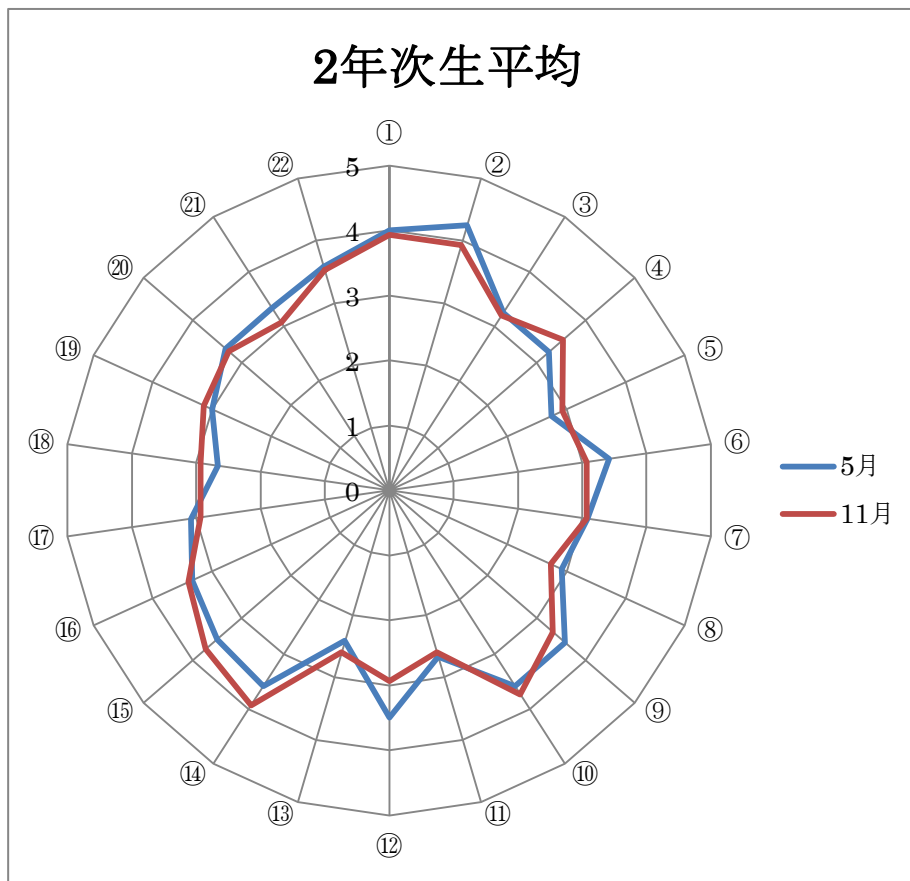
《全体》



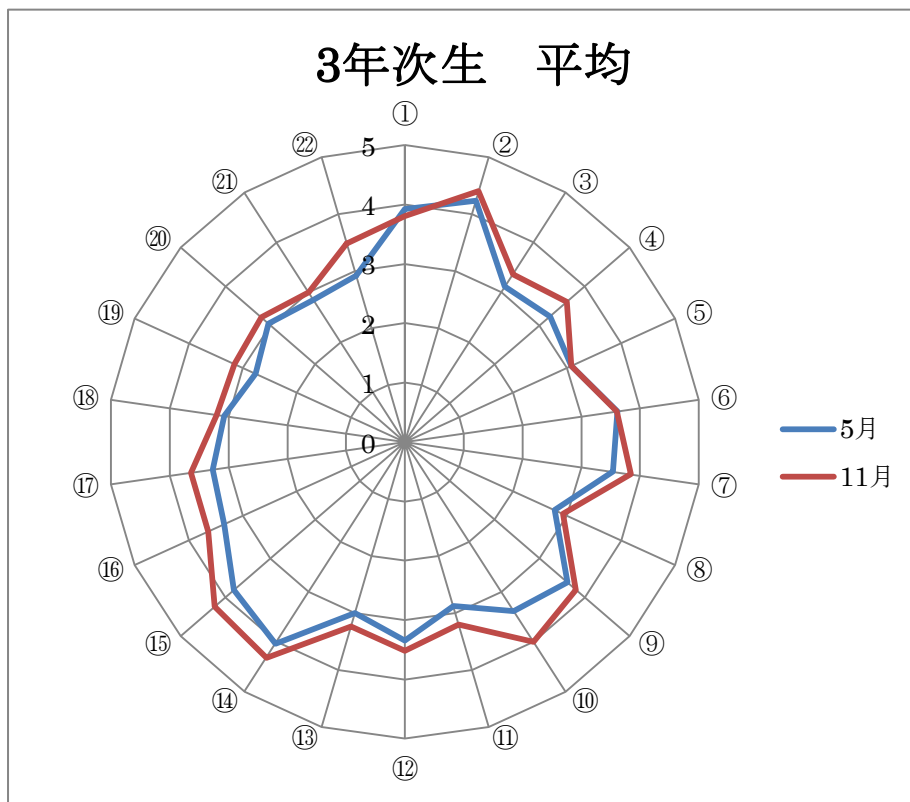
《1年次生》



《II年次生》



《III年次生》

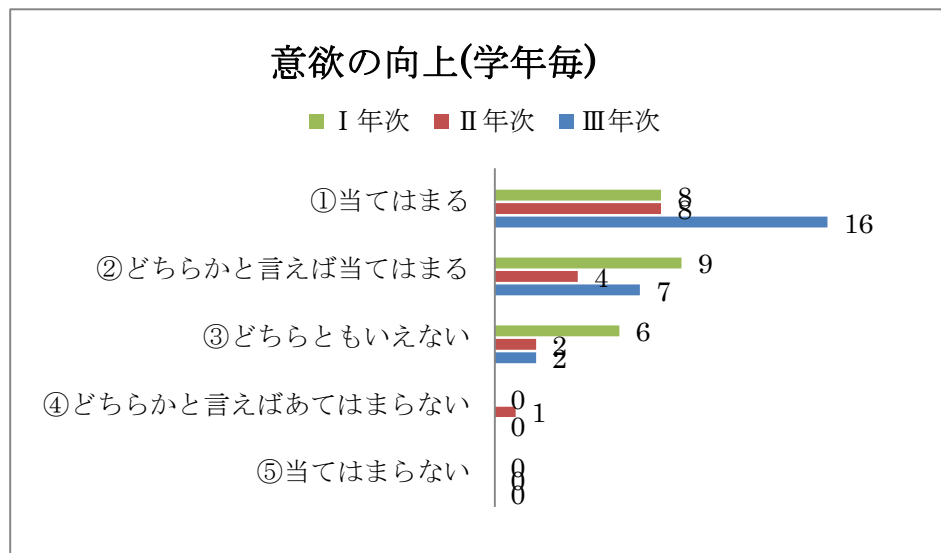
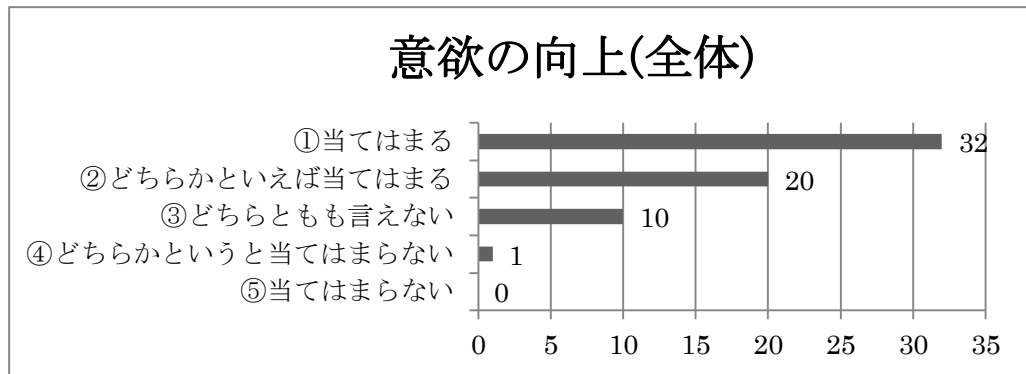


《分析》

- ・全体として、①「これまでの出会いへの感謝の心」の数値が高い。
- ・全体として、⑭⑮など、「奉仕の精神」（他者の喜び、悲しみへの共感、他者のための手助けなど）の数値が高い。
- ・上記の⑭⑮「奉仕の精神」は、1,2年次の生徒に比べ3年次の生徒が高い。
- ・全体として、⑧⑩⑬⑲⑳などの数値が低めで、「コミュニケーション力(他者の前で自分の意見を述べること)」や「自分と社会との関わりへの気づき」「社会を意識した行動」の数値が低い。また「基礎学力」についての自己評価や「学力向上のための計画と行動」についての数値も低めである。
- ・全体としての5月と11月の数値の顕著な変化は見られなかったが、3年次の生徒は全体的に数値が伸びている。一方「個人」毎に見れば、変化の大きな生徒もいて、その分析は、個人の生徒指導に活用できると思われる。

② 11月の記述式アセスメントの分析

1 エンカレッジコースに入学する前と現在を比べると、学校生活を意欲的に送ることが出来るようになりましたか。



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答のまとめ

学校生活を意欲的に送れるようになった要因

- ・友人ができた
- ・先生方のサポート
- ・週 1,2 回のペース →
 - ・登校が気軽に
 - ・気持ちに余裕
 - ・体調に合わせて登校できる
 - ・自分のペースを保てる
 - ・人間関係で悩まない
- {
 - ・強制が少ない → 自主性が育つ
 - ・自分で時間割の組み立て → 受け身にならない
 - ・講座等を自主的に選べる
- ・参加したい興味深いプログラムがある
- ・1人で行動しても変な目で見られない
- ・卒業式で進学した先輩たちを見て、意欲が湧いた

2 「エンカレッジコースで過し、自分のどんな点が変わりましたか。(その変化が、諸活動と関係があれば、その旨も書いて下さい。)」 に対する回答のまとめ

自分の変化

- ・余裕ができ心が楽になった。
- ・性格が明るくなった
- ・ポジティブ、前向きになった。
- ・自信がついた。
- ・嫌なことから逃げなくなった。
- ・社交的になった。
- ・友達に話しかけられるようになった。
- ・コミュニケーションの仕方が変わった。

- ・勉強の意欲が湧いた。学習時間が増えた。
- ・学校が嫌いではなくなった。
- ・教室に入れるようになった。

- ・時間の使い方がうまくなった。

- ・自分を発見できた。
- ・将来を考えるようになった。

- ・人との関わりを大切にしていこうと思うようになった。
- ・初対面の人も嫌がらず、その人の良さを探すようになった。

- ・「通信制」に対して、うしろめたさが少なくなった。

野外環境コミュニティー体験講座

- ・自分の意見を恐がらずに出せるようになった。
- ・自立の精神を鍛えてくれた。
- ・自分の中だけで解決せず、外に発信するようになった。
- ・様々な人と関わり、人とのつながりを大切にするようになった。
- ・エンカレッジの学びの素晴らしさを強調してくれた。

キャリアプランニング・セミナーによって

- ・エンカレッジの学びの良さを伝えてくれ、通信制に対する負い目が少なくなった。

With Kids、施設訪問などボランティア体験によって

- ・いろいろな世代、沢山のひとと接し、自分の殻に閉じこもっていたのが破られてきた。

3 「エンカレッジの学びの中で、自分の生き方や進路に影響を与えたものは何ですか」に対する回答のまとめ

自分の生き方や進路に影響を与えたもの

- ・友達の話し ・先生と接して ・「宗教」の時間、修養会、クリスマス会
- ・EOP ・スクーリング ・キャリアプランニング ・野外環境コミュニティー WS
- ・With Kids ボランティア

4 「保護者アンケート」のまとめ

アンケートの項目

- 1 エンカレッジコースに入学してからのお嬢様を振り返り、変化した点がありましたら書いて下さい。
- 2 エンカレッジコースの取り組みについて感想を書いて下さい。

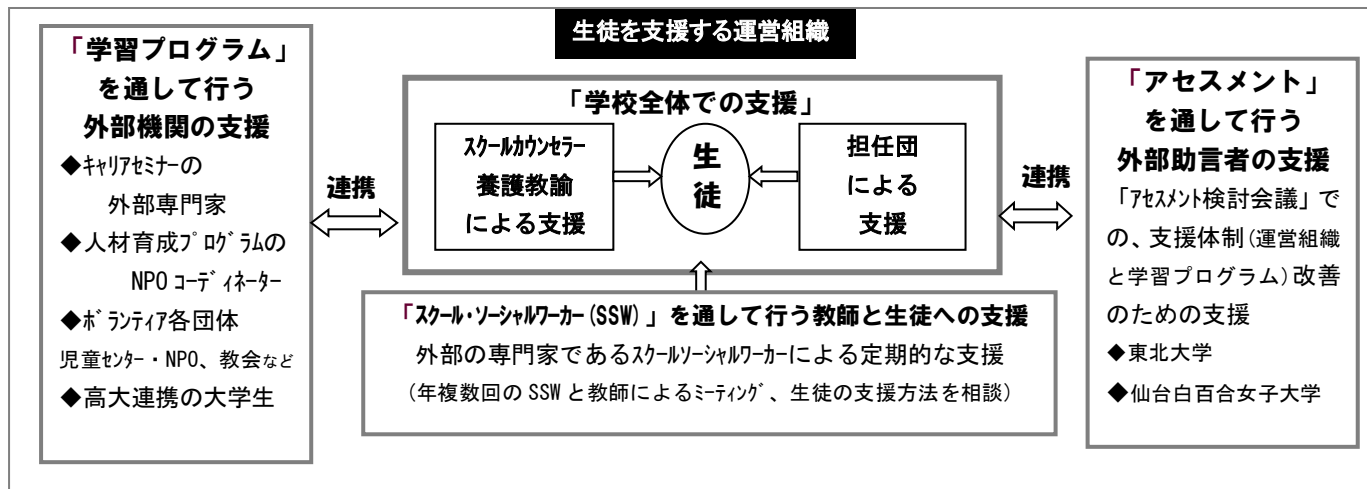
こう変化した

- ・自分を見つめる時間ができた。
- ・将来のことを考えるようになった。
- ・学校に自ら通うようになった。
- ・受け身でなくなった。 時間の管理がうまくなった。
- ・積極的 ・行動的 ・笑顔が多くなった。
- ・人を否定的にしか見られなかったが、肯定しながら周囲と付き合えるようになった。

感 想

- 先生方
 - ・生徒の個性や自立を尊重してくれる。
 - ・娘のあるがままを受け入れてくれる。
 - ・親身になって、聞きやすい、聞きやすい環境を作ってくれる。
- 行事
 - ・生徒同士がコミュニケーションとれる環境、イベントが多い。
 - ・体験、EOP、セミナーが多彩で素晴らしい。
 - ・卒業式は感動的、在校生にとっても良い時間だった。
 - ・保護者に気を配った行事だった。

③外部機関と連携した運営組織についてのアセスメント [アセスメント検討会議 I (1/26 実施)]より



【総括】

- ・運営組織の基本的な形態は概ね妥当と思われる。
- ・今年度は、定期的にスクール・ソーシャル・ワーカー[SSW]との情報交換のための定期的な会議を持ったが、情報交換や会議時での助言が中心で、直接生徒に関わってもらう場は少なかった。
- ・仙台白百合女子大から派遣してもらったSSWに関しては、大学の事情で来年度からは派遣できないことになった(電話、メールでの相談は可能)。来年度、あえて他のSSWに依頼するかは要検討。

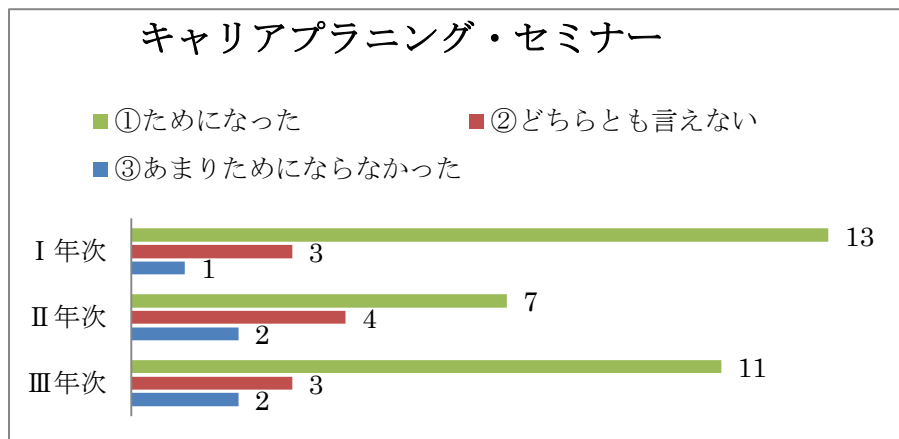
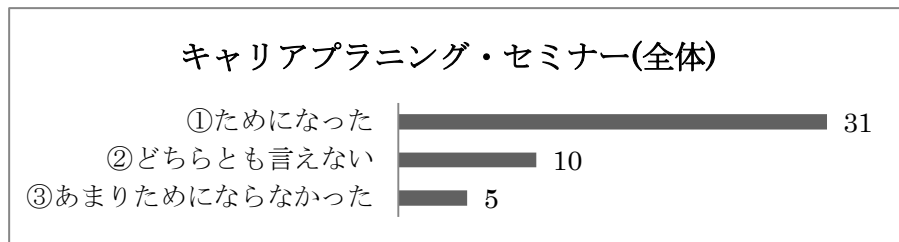
アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・生徒の現状や教員の経験不足から見れば、精神科医等の専門家による研修や、カウンセリングについてなどの研修の必要性を感じる。運営組織の中に、外部講師による「教員研修」を加えたらどうか。
- ・SSWについては、組織の中には残しておき、該当生徒や保護者がいる場合は、仙台白百合女子大に相談、電話、メール等で助言をいただく。

④外部機関と連携した学習プログラムのアセスメント [アセスメント検討会議 I (1/26 実施)]より

(1)キャリアプランニング・セミナー、実施状況 【★専門家によるワークショップ型】

【連携した外部機関、外部人材】 《講師》 前述の講師陣



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・自己理解力
- ・職業理解 → 将来への展望
- ・人との関わり方
- ・コミュニケーションの取り方 など

※一方で、講話形態なので、自分の心情にフィットしない話には、心を動かされない生徒もいた。

【担当者による総括】

- ・6割以上の生徒たちが「ためになった」と答えており、生徒たちが自分に向き合い、視野を広げることが出来たと考える。
- ・自己理解力、自己肯定感が増ただけではなく、多くの生徒が様々な活動を通してコミュニケーション力やプレゼンテーション力も身に付けることが出来た。
- ・生徒たちの感想を読むと、教師とは違った立場の大人としてどれだけ大きな影響を与えてくれたのかが伝わってくる。様々な職業や社会への関心を深めた生徒も多かった。
- ・ちょうど進路について考える時期だったので、このセミナーで勇気づけられたという生徒もいた。
- ・その一方で、「じっくりこない」「分かり切った事」などと捉える生徒もいたことや、欠席した生徒も少なくなかったことを考えると、このセミナーを「全員参加方式」で行うことは無理もあったのではないかと考える。

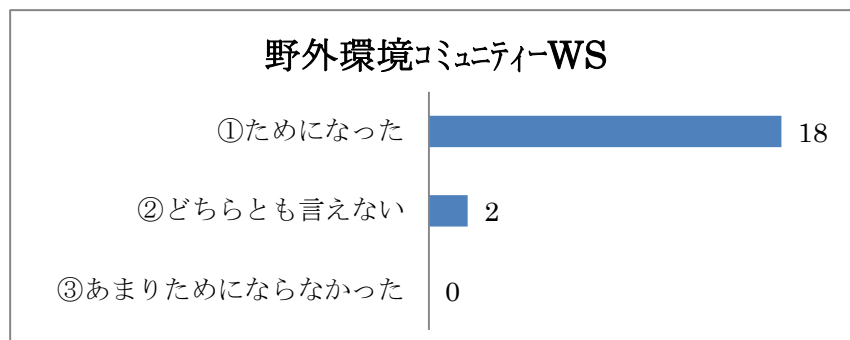
アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・来年度は、キャリアプランニング・セミナーを今年度のように全員参加の方式で行うのではなく、任意参加型で行い、自分の聞いてみたいというものに参加する形式にしてはどうか。実際、4人の講師の中から自分の聞いてみたい講師を選ぶという方式で行った第4回は、出席率も満足度も最も高いという結果が出ている。
- ・講話という形式だけでなく、職業人としてもものづくりを行ったり体を動かすような体験の講座も取り入れていき、色々な方法で自分を見つめる一助となればと考える。
 - ・演劇など自己表現的なもの ・ヨガの回数を増やす、
 - ・今年度の講師の継続講座として、「お菓子作り」や「スプーン作り」など
- ・「EOP」の講座の一つとしてつなげることも検討していく。
(アンケートの「新設してほしい講座」に、演劇、料理、和の文化、音楽系などがあつた)

(2) 野外環境コミュニティー体験講座、実施状況 【★交流体験型・自然体験型】

【連携した外部機関、外部人材】

・「NPO 法人スマイルシード」理事長 黄本富士子氏



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・協働する大切さ
- ・自ら主体的に行動する力
- ・団体行動する上での自分の役割り
- ・震災や災害に対する知識、非常時の行動の仕方
- ・大学生との交流 → 支えられていることの実感
- ・ボランティアの意義の実感

【担当者による総括】

- ・20人中、18人の生徒が「ためになった」と答えており、学校から外に出て、社会で活動する人々と接する社会体験は生徒に大きな影響を与えたようだ。
- ・この活動を通して、生徒は、協働する大切さ、自ら主体的に行動する力、団体行動する上での自分の役割りなどを学んだようだ。
- ・自由参加だったが、出席率の高い生徒ほど学んだものは大きかったようだ。一方で数回だけ参加の生徒も多く、募集の仕方に工夫が必要。
- ・「2泊3日」の大学生との合同合宿は、大学生中心のプログラムで、大学生のペースに振り回されてしまいがちだった。本校生は体調不良気味の生徒が多く、大学生のペースとずれ無理が生ずる。スケジュールも不明確で変更が多く、学校行事としては指導しづらかった。

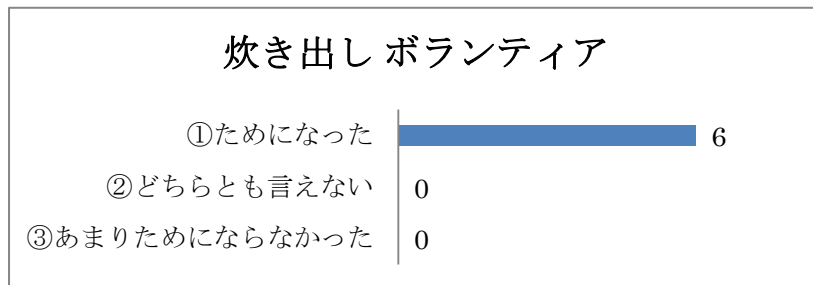
アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・生徒への呼びかけ方、募集の仕方に工夫が必要。
- ・大学生と一緒に宿泊プログラムは無理が多く、また健康面でも合宿は心配が多く、来年度は行わない。
- ・来年度は、日帰りプログラムを、8回程度行う。その前後には、校内で事前学習、ふりかえりをしっかりおこなう。
- ・来年度は、企画から生徒に考えさせ、受け身にならずより主体的な行動ができるような企画を考える。
- ・再来年度、文科省の委託が終わった後も続けるのであれば、バス代など交通費は、自己負担(預り金)か、現地集合などの方法に切り替えなければならないだろう。スマイルシードへの委託金も、縮小すると同時に、校長、事務長との協議のうえで予算建てる必要あり。

(3) ボランティア体験活動、実施状況 【★ボランティア体験活動型】

① 炊き出しボランティア

【連携した外部機関、外部人材】 NPO 法人「萌友」、 「日本カトリック正義と平和協議会」



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・自ら課題を見つけ、行動する力
- ・他者と協働、協力する大切さ
- ・社会の現状の理解
- ・奉仕活動している団体の認識
- ・ボランティア、奉仕活動の体験と充実感

【担当者による総括】

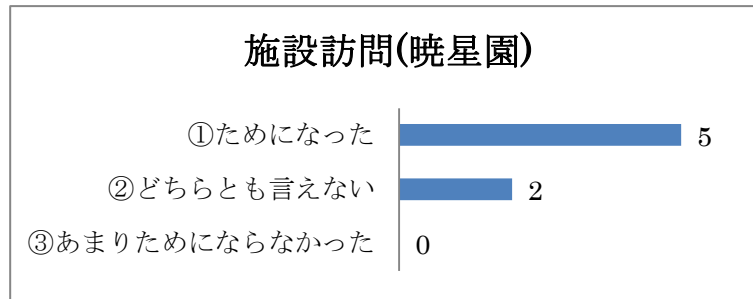
- ・参加した生徒は、すべて「ためになった」と答えており、校外に出て路上生活者と接し、炊き出しを行うことは生徒の視野を大きく広げたようだ。
- ・社会のために奉仕活動を行っている人々と接することで、「行政」とは別に社会貢献をしている NPO、教会などの存在を知ることができた。
- ・記述式のアンケートによると、自ら課題を見つけ行動する力、他者と協働、協力する大切さ、社会の現状の理解などを学んだようだ。

アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・単位を認定する「学校設定科目ボランティア」として行われたが、来年度も同じかたちで行いたい。
- ・第2、第3土曜日に行われるため、スクーリングの多い I 年次の生徒は参加できないことが多く、来年度は、2 年次、3 年次の生徒のみ対象としたい。

② 施設訪問

【連携した外部機関、外部人材】 社会福祉法人 カトリック児童福祉会 特別養護老人ホーム 暁星園



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・ 人生の先輩からの貴重な話 → 視野の広がり
- ・ 施設に対する知識 ・ 入所者の理解、スタッフの仕事の理解

【担当者による総括】

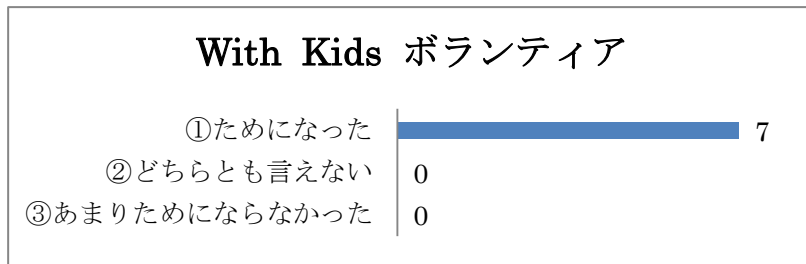
- ・ 学校側のスクーリングや行事と、施設の行事などの都合で訪問の回数をあまり確保できなかったが、できる範囲でのボランティアとしては頑張ったと思う。
- ・ 生徒たちは入居者の方との交流を通し、「人生の先輩としての深いお話が聞けた」「戦争で亡くした友人のことを思い出して泣いた方の心に寄り添えたらと思った」「お手本にして目標をもって生活したい」等、多くのものを学ぶことが出来たようである。社会問題への関心、奉仕の精神と実践等に大きな影響を与えたと考えられる。
- ・ 施設の担当の方からも、「人生の先輩との接し方がよくできていた」「言葉遣いが丁寧で好感が持てた」「同じ話をされても邪険に扱うことをせず、感謝している」という感想をいただいている。
- ・ ためになったという生徒が7割を超えた。しかし中には、「自分の祖父母を思い出して辛い」と途中で辞めてしまった生徒もいた。
- ・ 「話の繰り返しが多かった」という生徒もいたので、傾聴ボランティアの在り方についても色々な方法を模索していきたい。

アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・ 「老人ホームでのボランティアによりやりがいを感じる参加形態とはどのようなものか」を検討することが次年度の課題である。
- ・ また、最後の訪問を終えてから、生徒たちで手作りのカードを送り、とても喜ばれたのだが、そのような「もの作り」や「メッセージ」という形式でのボランティアも次年度は取り入れていけたら、訪問することが難しい生徒たちでも参加できるのではと思った。施設訪問のボランティアの幅を広げることも次年度の目標である。
- ・ 施設の事情や意向を配慮し、訪問回数を考える。
(月1回程度が妥当、風邪、インフルが流行する冬は避ける)

③ With Kids ボランティア

【連携した外部機関、外部人材】 ・寺岡児童センター ・仙台白百合学園小学校(時間外預かり SKIP)



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・ 保育関係の職業理解
- ・ 自分の将来の明確化
- ・ 子どもの関わり方の理解
- ・ 子どもたちの行動の理解
- ・ 子どもたちと関わり、今までの「自分」を考えさせられた。(自己理解)

【担当者による総括】

- ・ 生徒の感想をみると、自分より年下の子どもたちとの接し方や、子どもたちと接する職業に就く大人たちの働き方を学ぶよい機会となっていたように感じられた。また、長期休みに子どもをみる人手を欲していた各施設から感謝の言葉を頂くこともでき、ボランティアとして意義のある企画だったように思う。
- ・ 今年度は KAPLA（長期的に備品として活用可能）を購入したが、基本的に必ずしも経費のかかる企画でもないので、長期的に継続していくことが可能な企画だと考えている。
- ・ 今年度は 2 つの施設へ、数日間にわたって訪問したことについて、生徒は各施設の相違点をよく観察していたり、日を重ねるごとに児童とのかかわりを深めたりしていて、今回の実施方法から得るものはあった様子である。
- ・ しかしながら長期休み中、他のボランティアにも参加していた生徒にとって負担が重くなかったか、加えて、スタッフも連日引率となったこと（寺岡の場合は校外の為、予算外の引率費も生じた）ことから、学校側の負担はどの程度に抑えるかなども考慮した上で、詳細な実施方法については検討する余地があると言える。

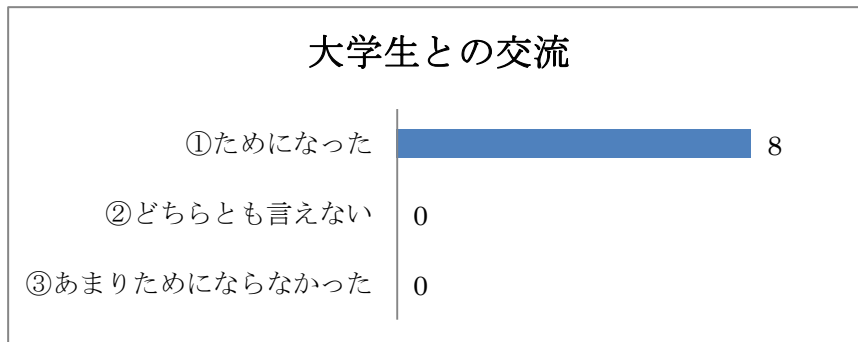
アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・ 上記の理由から、実施規模や期間等を縮小することの検討が必要。
(次年度は、回数を縮小し、「寺岡児童センター」3回、「併設小 SKIP」3回を考えている。)
- ・ 次年度は今年度の反省をふまえつつ、改めてねらいに立ち返ってこの企画を改善し、継続的に実施していく。

(4) 高大連携を通じた「学び直し」と「発展的学習」 【★大学生との座談会型】

【連携した外部機関、外部人材】

・仙台白百合女子大学 教職担当科、 仙台白百合女子大学 学生



◆「その理由を書いて下さい」に対する回答の分析

向上した資質

- ・大学理解 → 進路意識の向上 将来への展望
- ・学習内容(漢文)の理解
- ・大学生(他者)と接したことから得られた視野の広がり喜び

【担当者による総括】

- ・概して良い企画だった。生徒にとって年が近いお姉さんが来てくれ、気さくに話げできた。中には、結構深い話になった例もあるようで、親や教員には話せないようなことも、うちとけて話げできた様子。回数・頻度が増えると、こうした生徒のチャンスも増える。
- ・大学は10月から後期時間割となり、9月までのボランティアさんは、来ることが出来なくなった。後期の新たな担当者が決まるまで空白があり、10～11月は実施できなかった。また、生徒不在のため開店休業状態で、EOPなどに一緒に参加してもらった場面もあった。これらへの対策が必要。
- ・大学側の尽力・ご協力に、深く感謝している。

アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・実施日をいつにするか、より工夫が必要。
(学生さんの授業の都合、ECの他の行事、スクーリングとの兼ね合い、などを考慮。)
- ・学習室が狭いため、学生さんと生徒が話していると、席が足りずに座れない生徒や入りづらそうな生徒もいた。交流を、あえて学習室で行うのか、それとも別室に学生さんが控え、希望する生徒がそこに行くスタイルにするのか、検討が必要。次年度、そうした部屋が得られるのかの結論を待ち、検討。

(5) 保護者向けセミナー 【保護者対象コーチング型】

【連携した外部機関、外部人材】 講師--- E-Sta. 庄内 さかた教育コーチング®研究会 代表 高山彩子氏

【実施状況】

実施日-----7/16 (土) 10:00~11:30 保護者会で実施 (聖堂大会議室)

テーマ-----「子どもが驚くほど伸びる 魔法のパパ・ママ コーチング」

【担当者による総括】

- ・保護者の感想には、次のようなものがあり、一定の効果はあった。
 - 「自分が子どもの言葉を真剣に受け止めていないことに気がついた。」
 - 「これまで、子どもにかなり否定的で後ろ向きな発言ばかりしていた。」
 - 「ただ聴いてあげることが、子どもの安心感につながるということが分かった。」
- ・保護者は、本校に入学してからの子どもの変化を概ね肯定的に捉え、保護者対象の研修会などに対する評価も高い。

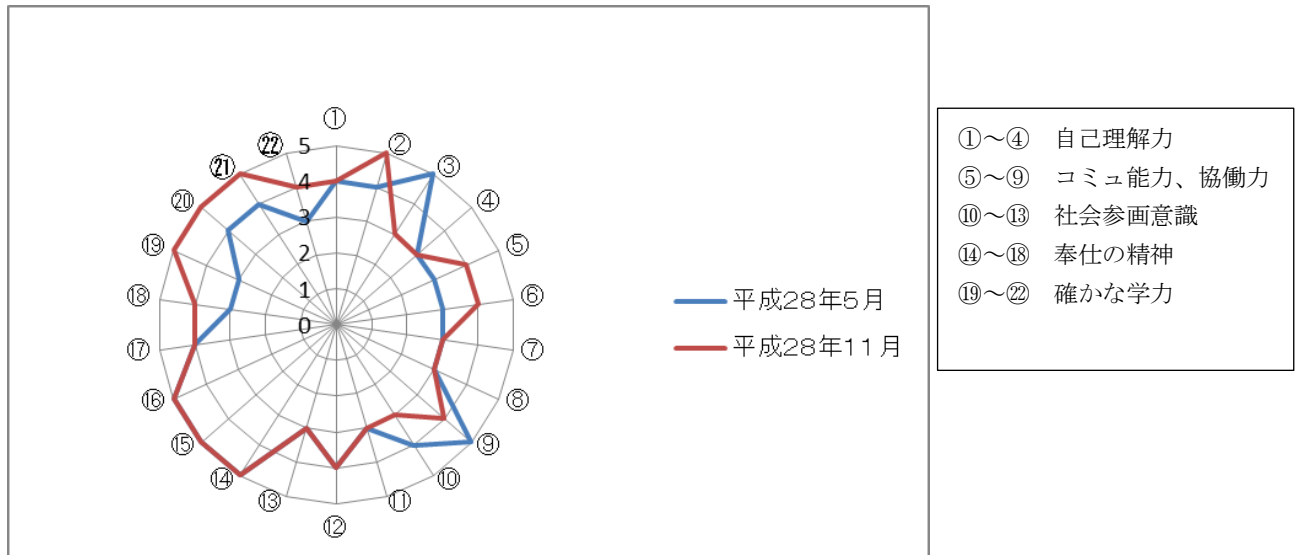
アセスメント I (本校スタッフによるアセスメント)より

- ・コーチングの内容から見ると、ためになった保護者がいる一方で、よく言われていることと取った保護者もいる。
- ・次年度は、まったく違った専門職の話なども、保護者にとって興味深いかもしれない。
- ・女性の身体、精神の変化、性教育等、医学的な話も保護者にとって(生徒にとっても)必要なことであろう。

⑤ アセスメントの結果を「個人」の生徒指導に活かす方法

《個人》の数値的変化のグラフについては、5月から11月にかけてどのように変化したかを分析、また、生徒の「記述式」や保護者のコメントと合わせて個人指導に使用した。以下は、その分析、指導の例である。

A.S (I年次生) のケース



記述式の自己評価の概要

- ・中学校の時と比べ楽しく生活出来ていて勉強もしっかり学ぶことが出来ている。
- ・前より、明るく積極的に行動できるようになった。
- ・大学のことなどを聞け、積極的に行動することなどを学べた
- ・キャリアプランニングセミナーで、留学に興味を持った。

グラフから読み取れること

- ・コミュニケーション力(主に伝達力)の自己評価が向上した。
- ・奉仕の精神(他者への共感、行動)については、5月、11月とも数値が高い。
- ・学力向上のための計画や努力についての数値が向上している。

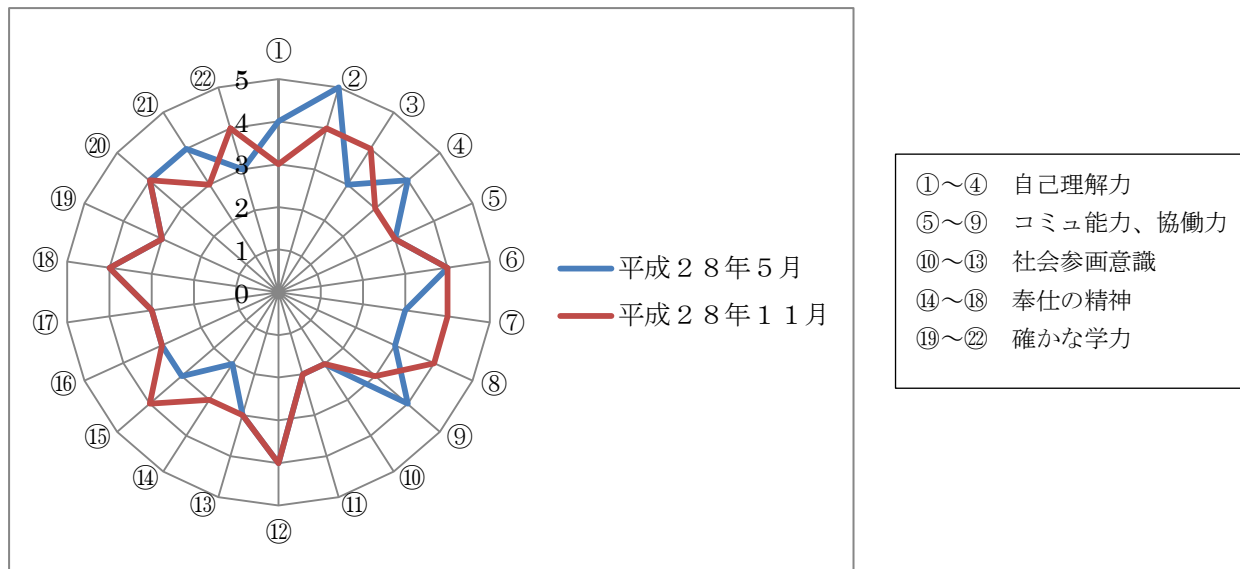
記述式の内容から読み取れること

- ・本校の学習プログラム(キャリアプランニングセミナーなど)から刺激を受けている。
- ・学習に対しても、意欲と積極性が見られる。

総評と今後の指導方針

- ・本人は、中学校時代、友人関係のトラブルから不登校状態が続いていた。
- ・本校入学後は友人もでき、学習意欲が向上、諸プログラムへ積極的に参加している。
- ・10月には東北・北海道地区通信制教育研究会主催の「生活体験発表会」に自ら希望して出場、中学校時代から現在までの自分の変化を発表した。この体験は、上記のコミュニケーション力の向上などに影響を与えていると思われる。
- ・「生き方の探究」や「グループでの協働」などにたいする自己評価は低めで、将来の生き方に対してより視野を広める体験や、特定の友人以外の人々とのグループ活動などの体験をより勧める必要がある。

H.N（Ⅱ年次生）のケース



記述式の自己評価の概要

- ・自分で時間を組み立てて動かなければならず、受け身で過すのではなく自分から動けるようになった。
- ・(野外環境コミュニティーWSの体験で)自分の意見を恐がらずに出せるようになった。
- ・自分から動くことの大切さを教えてくれた。
- ・テレビで話題にのぼっていて、内部の様子に興味があった時、詳しく話を聞いた。(施設訪問)
- ・保育関係の仕事について考えていた時期だったから、未来と向き合おうと思えた。(With Kids)

(保護者 母)

- ・入学前は自信なさげな様子でしたが、エンカレッジコースに入学してから、いろんな体験(ボランティアなど)を通して自信をつけてきました。自分の意見もしっかりと言えるようになって、とても嬉しいです。
- ・体験コースが続くといいと思います。EOPの種類も増えるといいと思います。

グラフから読み取れること

- ・コミュニケーション力(伝達力、プレゼンテーション力)の自己評価が向上した。
- ・社会への関心、ボランティアなど社会的諸活動への積極的参加、基礎学力向上のための努力についての自己評価も高めである。

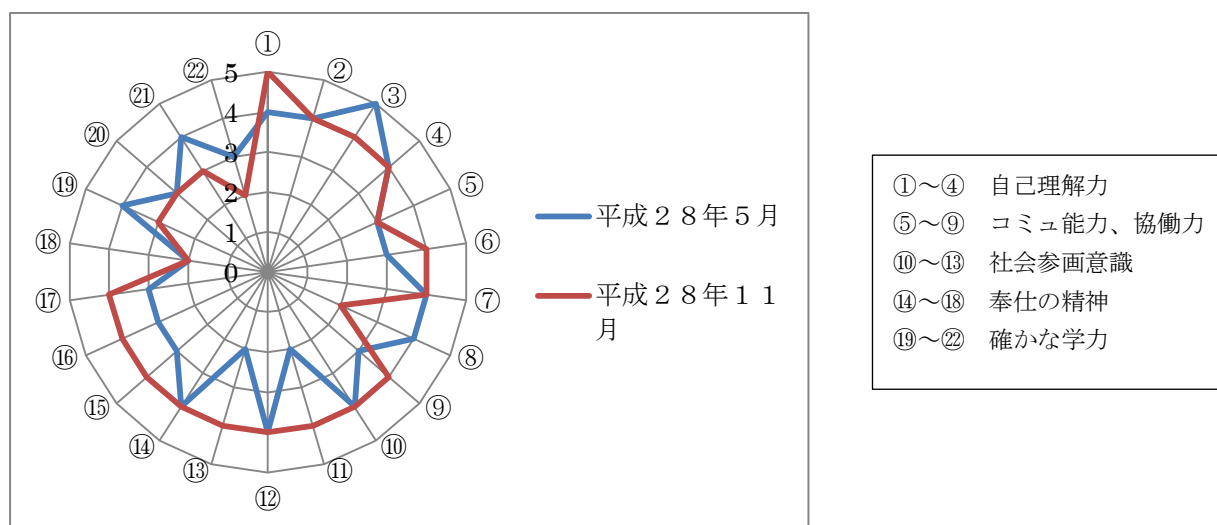
記述式の内容から読み取れること

- ・本校の学習プログラム(野外環境コミュニティーWSなど)を通して積極的に発言するようになり、それが上記のコミュニケーション力の向上に結びついている。
- ・将来の生き方についても具体的に考えるようになった。
- ・保護者も本校入学後の本人の変化を実感し、本校の社会体験プログラムを評価している。

総評と今後の指導方針

- ・本人は、中学校時代はクラスに馴染めず、不登校状態だったが、本校入学後は友人にも恵まれ、体験活動類には積極的に参加し、特に7回行われた「野外環境コミュニティーWS」にはすべて参加、大きな刺激を受けた。
- ・将来の目標を模索し始めているが、基礎学力の向上に対する具体的な努力は不足しており、計画的な学習に対する支援が必要。

C.S (Ⅲ年次生) のケース



記述式の自己評価の概要

- ・毎日いくつもの授業がある全日制とは違い、自分のペースで通いながら学習出来ました。先生方の教え方も分かりやすく自分に合っていた。
- ・中学校の頃のように、常に勉強や部活に追われている生活ではないので、一杯いっぱいにならず心が楽になった。そのため、余裕をもって計画的に学習できるようになった。
- ・宗教のスクーリングや修養会、クリスマス会などに影響を受けた。「心やさしい女性」「キリストの愛の精神」を持つ大人になりたいと思ったきっかけは、間違いなくエンカレッジの先生方。

(保護者 母)

- ・自立心が育った。穏やかに学校生活を送れるようになった。明るくなった。行動力が増した。積極的になった。
- ・大学への進路の選択の際は、特に担任の先生に色々相談に乗っていただき、手厚いフォローをしていただいて感謝しております。

グラフから読み取れること

- ・全体的に数値は向上している。特に自己肯定感や奉仕の精神などの数値の向上が顕著である。
- ・他者の前で発表することや、社会的諸活動への積極的参加などの自己評価は低い。

記述式の内容から読み取れること

- ・本校での学習のペースが自分に合ったようで、精神的にも安定して学校生活を送ることができた。
- ・宗教行事や教師の姿、姿勢からキリスト教精神を学び、本人の価値観形成に寄与したと思われる。
- ・保護者も、本人が学校に適応し、良い方向へ変化したことを評価している。

総評と今後の指導方針

- ・本人は、小学校高学年から学校の集団生活に馴染めず不登校状態だったが、公立中学から本校に入学してからは自分で余裕のある学習ペースを作り、ほぼ毎日登校して学習に励み、この3年間、精神的にも安定し大きく成長した。
- ・地道な努力で大学に合格したが、他者と積極的に交わりたとはせず、また、他者の前で自分を表現することは苦手である。
- ・体験活動には積極的に参加しなかった。上記の社会性の向上のためには、大学入学後、諸活動に積極的に参加することが必要で、卒業までにそうした指導を行う予定である。

(3) アセスメント検討会議Ⅱ〔本校スタッフと助言者による総合アセスメント〕の内容

日 時 平成 29 年 2 月 3 (金) 10:00～12:00

場 所 第二応接室

- 内 容
- 1 研究概要について
 - 2 アセスメントの方法について
 - 3 今年度の取り組みと、アセスメントの結果についての報告
 - 4 外部機関と連携した支援体制の改善についての質疑と助言
 - (1) 学習プログラムの改善について
 - (2) 支援システムの改善について
 - (3) アセスメント方法の改善について

出席者

高橋 満	(東北大学大学院教育学研究科長)
牛渡 淳	(仙台白百合女子大学 学長)
嘉村 藍	(仙台白百合女子大学 人間学部 心理福祉学科 助教)
青木タマキ	(仙台白百合学園中学・高等学校 校長)
阿部和彦	(仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教頭)
宮崎 哲	(仙台白百合学園高等学校 通信制課程 主任)
清田拓郎	(仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭)
鈴木有子	(仙台白百合学園高等学校 通信制課程 教諭)
戸村たつひ	(仙台白百合学園中学・高等学校 養護教諭)

《質疑と助言の内容》

〈学習プログラム〉について

立案・設計に関して

- ・「学校の教育目標」、「通信制課程の教育目標」、「本研究の目標(ねらい)」、「各プログラムのねらい」のそれぞれの関連性を明確にすることが必要。
- ・「単発的な企画」と「継続的な企画」の教育的な効果を別に考え、全体としてバランスよく組み合わせることが必要。
 - 「単発的な企画」… その日だけの経験では、特別な資質は形成できない。気づきや感動を通して、後の主体的な活動につなげる“きっかけ”的な役割を持つ。
 - 「継続的な企画」… ねらいをはっきりさせ、柱を作り、ストーリー性を持たせ、完結させることで、「単発」とは違う教育的効果を生み出すことができる。
- ・生徒アンケートの「通信制に対して、うしろめたさが少なくなった」や、保護者アンケートの「これまで娘は人を否定的にしか見られなかったが、肯定的に捉えられるようになった」については、変化してほしい資質のベースになるものと考えられる。
- ・プログラムの種類、それぞれの回数とも多いので、年間の流れを生徒に示すことも必要。
- ・通信制課程の生徒の大学入学までの指導や、大学入学後の様子についての情報交換など、姉妹校同士、連携していけるとよい。

生徒の主体性や達成感を育てるために

- ・どの企画にも、生徒の主体性(企画させる、考えさせるなど)を持たせる活動や、振り返りや成果物などがあると、達成感が生まれ、生徒の自己肯定感の醸成につながる。
- ・施設訪問の「メッセージカード」などのモノ作りなどは、生徒に達成感を与える方法として有効。

プログラムに参加できない生徒がいる現状に対して

- ・通信制課程には、発達障害、摂食障害、病弱な生徒など多様な事情を抱えた生徒がいるので、こうした生徒に合わせたプログラムがあるとよい。コミュニケーション力を伸ばすと言っても、生徒によっては、コミュニケーションをとらせることがストレスになることもある。
- ・学校になかなか来れない生徒のためのプログラムも必要。生徒のタイプ(抱えている事情)を分類し、そこから逆算してプログラミングするという発想もある。
- ・「個別」を対象にするプログラムと、「全体」を対象とするプログラムを、意識して立案するとよい。

〈アセスメントの方法〉について

数値的自己評価について

- ・数値的自己評価のレーダーチャートは、「それぞれの指標の平均」で出すか、項目数を絞った方が変化が見えやすい。
- ・指標の内容は、生徒の現状に合わせ再検討し、種類や指標の数も見直しが必要か。
- ・数値的变化については、その年度の変化だけでなく、入学時から卒業までの変化が分かるとよい。
- ・数値的自己評価については、前回の数値を見せるか、見せないかによって、数値は違ってくる。見せれば、前の数値より上げたい心理が働いたり、見せなければその時の気分などにも左右されたり、どちらが客観性があるかの判断は難しい。

記述式アセスメントや他の検証の仕方について

- ・記述式も、ある項目については5月と11月に同じアンケートをとり、比較してみる方法もある。
- ・学習プログラムには、子どもとの交流、大学生との交流、高齢者との交流などがあるが、「異世代交流」の教育的効果を検証してみるのも面白い。そうした研究の成果もある。
- ・卒業後、しばらくたってから、振り返ってどうだったか、という追跡調査的なアセスメントも有効。
- ・アンケートは、記名させるか、無記名か、その目的によって異なってくるが、記名の場合は本音ではなく、バイアスがかかってしまうことは意識すべき。



4. 総括と改善案策定

(1) 今年度の取り組みについての総括

- ・〔生徒の学習意欲の向上〕 今年度の様々な取り組みを通して、「本校に入学する前に比べて学校生活を意欲的に送ることが出来るようになった」生徒は、「当てはまる」が 51%、「どちらかといえば当てはまる」が 32%で、合計すると 83%の生徒が学校生活に意欲を持つようになった。
- ・〔教員の生徒・保護者に対する姿勢〕 生徒、保護者の感想から、教員に日々大切にされていることへの感謝の気持ち読み取れる。そのことが、生徒の自尊感情を高め、心を安定させ、上記の学校生活への意欲につながったものと思われる。
- ・〔社会体験が伴う学習プログラムの効果〕 今年度の取り組みの中でも、特に生徒に影響を与えたものとしてあげられるのが、「野外環境コミュニティー体験講座」や「キャリア・プランニングセミナー」「施設訪問」「With Kids ボランティア」「炊き出しボランティア」などの、社会で活動する人々と接し、学校の外で行う社会体験が伴うプログラムであった。
- ・〔生徒の進路意識の向上に寄与したプログラム〕 「自分の生き方や進路に影響を与えたもの」としても、上述の社会体験プログラムがあげられる。また、カトリック校として行っている必修科目「宗教」や宗教行事も生徒の生き方に影響を与えていることが分かった。
- ・〔生徒の進学状況と学習プログラムの関係〕 今年度は 28 人が卒業したが、そのうち、体調により進学しない生徒を除けばほとんどの生徒が、大学、短大、専門学校等に進学した。生徒の記述式自己アセスメントを見れば、今年度の学習プログラムが、生徒の進路意識の向上に寄与したことが分かる。
- ・〔学習プログラムの運用の仕方と、通信制という教育システムを活かす方法〕 上記の学習プログラムの運用の仕方として今年度行ったのは、スクーリングを週 2 回(水曜・土曜)に設定、主に月曜日は校外での学習プログラムに、火、木、金は、校内で行う学習プログラムに充てた。こうすることで、週 1,2 回程度のスクーリングのための登校日以外の日を体験的プログラムに利用し、通信制という柔軟な教育システムを最大限に活用する方法をとることができた。
- ・〔学習プログラムの精選〕 複数の学習プログラムを実施し、それぞれが生徒に与えた影響、効果を検証することができたが、スタッフ教員の数から見ると、全体としてプログラムの種類や回数が多すぎ、内容をこなすのに精一杯な面があった。プログラムを精選し、バランスのとれた年間プログラムを編成する必要がある。
- ・〔登校できない生徒への対策〕 学習プログラムに積極的に参加した生徒には資質の向上が見られるが、一方で様々な理由で登校できずスクーリングが精一杯という生徒もいてその格差は大きく、不登校気味の生徒に合わせたプログラムの検討も必要。
- ・〔探究活動の重要性〕 グローバルスタディーズや情報応用などの探究活動によって、生徒の学習に取り組む主体性、積極性が育成された。
- ・〔教員研修の必要性〕 ・生徒の現状や教員の経験不足からから見れば、精神科医や臨床心理士等の専門家による教員研修の必要性を感じた。 ・また、全通研、地区通研主催の研修会は、教員の視野を広め、生徒を支援するための資質を向上させるものとして有用であった。
- ・〔保護者の教育力の向上〕 保護者にとっても、本校に入学してからの子どもの変化には概ね、肯定的に捉えている。また、保護者対象の研修会などに対する評価も高い。

(2) 次年度に向けての改善案

学習プログラムの設計と立案について

【目標設定】

- ・「学校の教育目標」、「通信制課程の教育目標」、「本研究の目標(ねらい)」、「各プログラムのねらい」のそれぞれの関連性を明確にする。

【社会体験の重視】

- ・今年度の取り組みでも、社会体験は生徒に大きな影響を与えた。次年度も、学校から外に出て社会で活動する人々と接する社会体験プログラムを重視する。

【生徒の主体性を育てる工夫】

- ・生徒の主体性を育てるために、教員側からプログラムを与えるのではなく、「企画段階から生徒に参加させる」「振り返りの時間を設定する」「生徒も参加して成果物を作る」などを通して、生徒の主体性を育て達成感を与えるプログラム設計をする。

【プログラムに参加できない生徒への対策】

- ・学習プログラムを設計しても、積極的に参加する生徒がいる一方で、様々な事情で充分には参加できない生徒もいるのが現状。そうした生徒にも対応するプログラムの工夫が必要。

【通信制という教育システムを活かす、学習プログラムの運用方法】

- ・本校は、スクーリングを週2回設定しているが、それ以外の曜日に学習プログラムを配置し、全日制にはできない通信制ならではの教育システムを開発する。

【学習プログラムの精選】

- ・教員にとっても生徒にとっても、より集中して学習効果を上げるために、年間を通した学習プログラムの種類や回数を精選する。

それぞれの学習プログラムについての改善案

《キャリアプランニング・セミナー》

- ・全員参加方式ではなく、任意参加型で行う。
- ・講話という形式だけではなく、生徒の能動性を重視し、ものづくりや体を動かすような体験講座も取り入れる。
- ・単発的な講座だけでなく、継続的な企画も検討する。

《野外環境コミュニティー体験講座》

- ・事前事後学習をより充実させる。
- ・プログラムの企画段階から生徒を参加させ、生徒の主体性を育てる。
- ・成果物作成にあたって、生徒に企画、制作を担当させ、達成感を与える。
- ・大学生と一緒に活動する合宿プログラムは、今年度は行わない。

《施設訪問》

- ・訪問し傾聴するだけでなく、「ものを作り訪問時持参する」「メッセージカードを送る」などの形式も取り入れ、ボランティアの幅を広げる。

教員研修、保護者向けセミナーについて

《教員研修》

- ・生徒の現状に対する教員の経験不足から見れば、精神科医や臨床心理士等の専門家による教員研修が必要。「運営組織」の中に、外部と連携した「教員研修」を位置づける。

《保護者セミナー》

- ・精神医学、性教育、臨床心理などの専門家も含め、保護者にとって有用なセミナーの内容を幅広く検討する。

アセスメントについて

〔数値的自己評価〕

- ・指標の内容や項目数を、生徒の現状に合わせ再検討する。
- ・レーダーチャートについては、生徒の変化をより明瞭にするため、項目数や項目内容を吟味する。

〔記述式アセスメントについて〕

- ・記述式においても、ある項目については5月と11月に同じアンケートを取り生徒の変化を比較する。
- ・「異世代交流」の教育的効果の検証や、卒業後の追跡調査などのアセスメントも検討する。

平成 28 年度
文部科学省 委託事業
「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」

研究成果報告書

平成 29 年 3 月発行

編集・発行
仙台白百合学園高等学校 通信制課程 [エンカレッジコース]
〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目 2 番 1
代表 Tel. 022-777-5777
直通 Tel. 022-777-6625 Fax. 022-777-6001
<http://enc.sendaishirayuri.net/>



仙台白百合学園中学・高等学校